

川内川水系河川整備基本方針の変更について

<参考資料>

令和8年5月28日

国土交通省 水管理・国土保全局

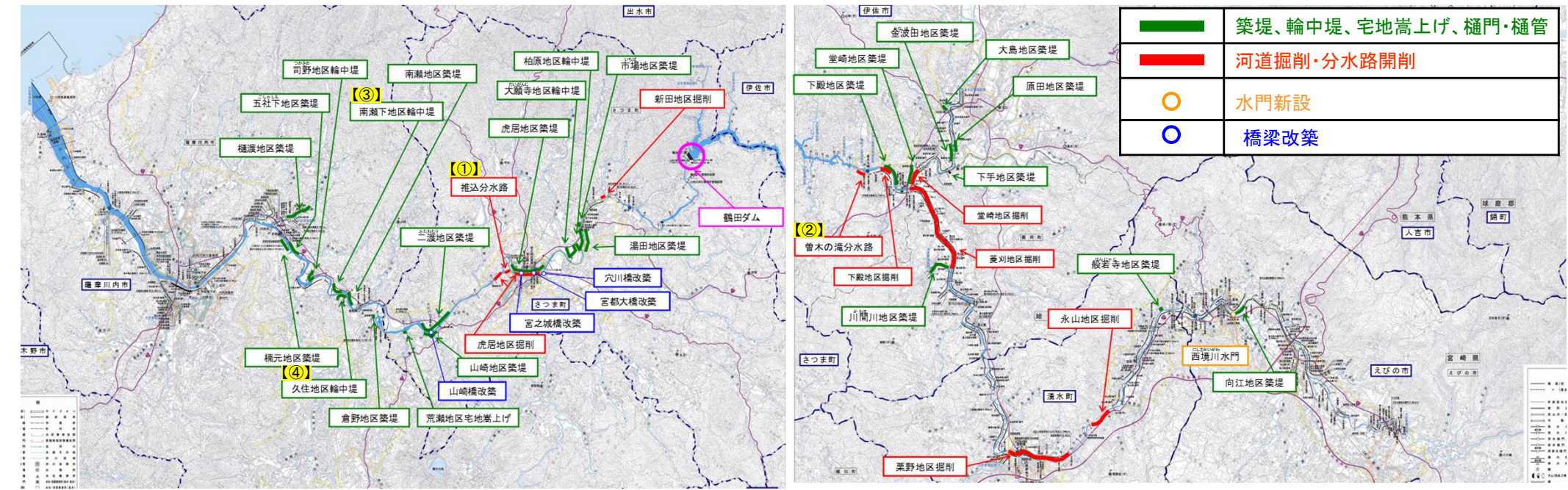
①流域の概要

流域の概要 平成18年7月洪水の概要(激特事業の概要)

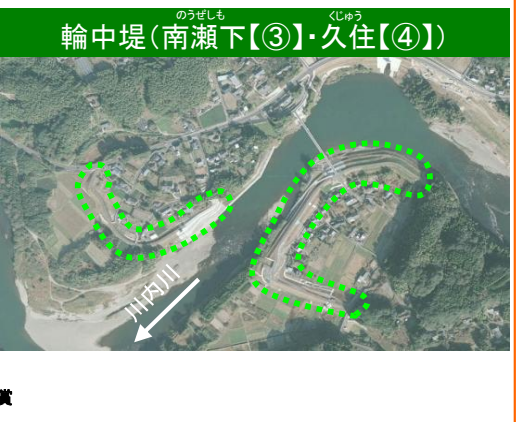
○ 平成18年7月洪水氾濫による家屋の浸水被害解消のため、築堤、河道掘削、分水路開削等の河川激甚災害対策特別緊急事業(激特事業)を緊急的に実施。

川内川水系河川激甚災害対策特別緊急事業の概要

- 既往最大洪水による甚大な被害を受け、河川激甚災害対策特別緊急事業を実施
- 平成18年7月洪水に対して、平成18年度から23年度までの6年間で外水氾濫をなくし、約1,500戸の家屋の浸水被害の軽減を図る



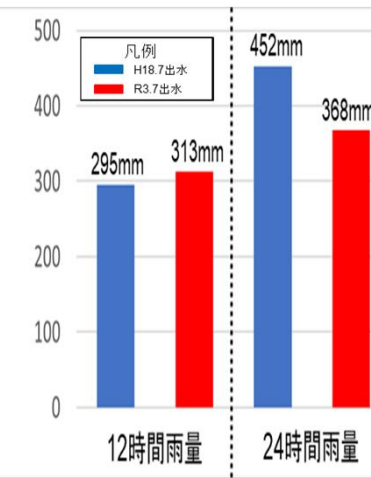
事業目標	平成18年7月洪水氾濫による家屋の浸水被害を解消する。 一家屋被害を約1,500戸解消する計画
採択延長	約62.3km → 全国歴代2位(事業採択時)
事業費	約375億円(国:約350億円、鹿児島県:約22億円、宮崎県:約3億円)→九州最大規模(事業採択時)
事業箇所(国施工)	37箇所(川内川沿川3市2町)
事業量	用地取得面積 約68万m ² 築堤延長 約16km 掘削量 約200万m ³ 水門・樋門等 27箇所
工期	平成18年度～平成23年度



- 川内川では、平成18年7月出水により浸水戸数2,315戸など甚大な被害が発生したため、河川激甚災害対策特別緊急事業等の河川改修及び鶴田ダム再開発により河川・ダム一体となった治水対策を実施。
- 令和3年7月出水は、12時間雨量で見ると平成18年7月出水に匹敵する降雨であったが、宮之城水位観測所地点の水位は、平成18年7月洪水時の最高水位と比べて約4.26m低く、治水対策の効果発現により被害を軽減。



川内地点上流域雨量の比較



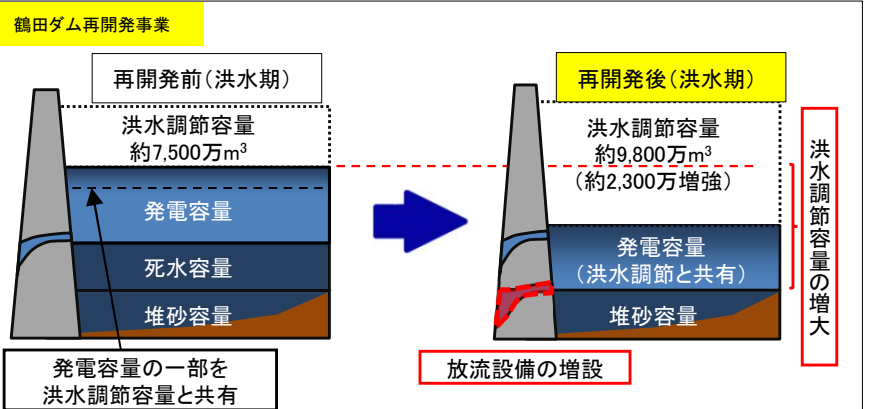
宮之城水位観測所における最高水位比較図



川内水位観測所における最高水位比較図

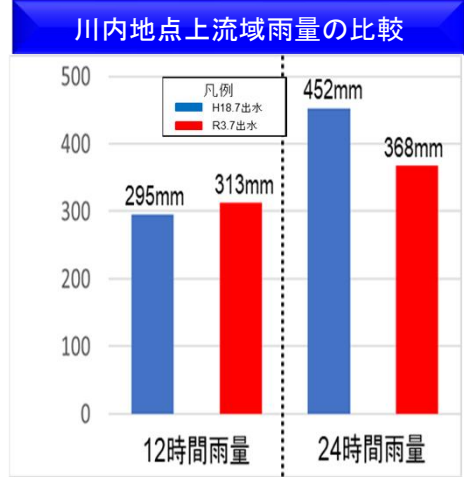
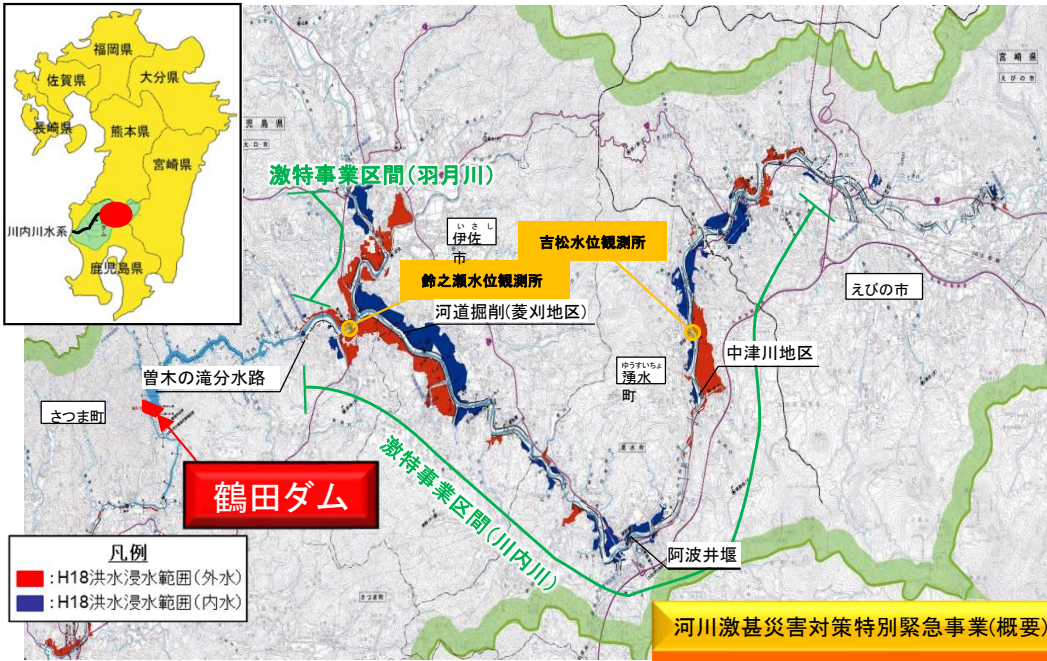


出水	浸水面積 (ha)	浸水戸数(戸)		
		床上	床下	計
H18.7出水	2,777	1,816	499	2,315
R3.7出水	1,256	30	110	140

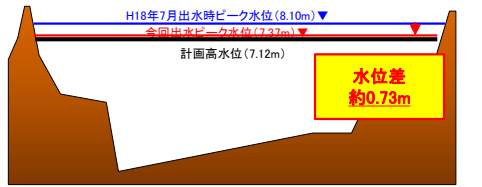


※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

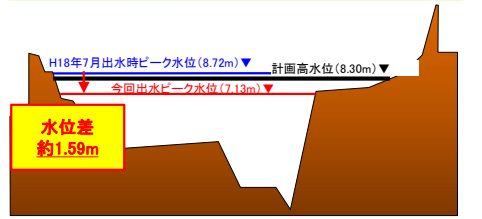
- 川内川では、平成18年7月出水により浸水戸数2,315戸など甚大な被害が発生したため、河川激甚災害対策特別緊急事業等により治水対策を実施。
- 令和3年7月出水では、12時間雨量で見ると平成18年7月出水に匹敵する降雨であったが、吉松水位観測所地点の水位は、平成18年7月洪水時の最高水位と比べて約1.59m低く、治水対策の効果発現により被害を軽減。



鈴之瀬水位観測所における最高水位比較図



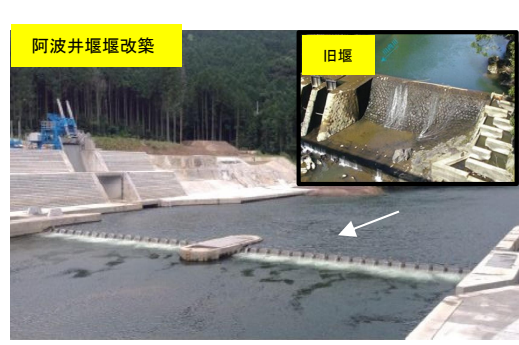
吉松水位観測所における最高水位比較図



河川激甚災害対策特別緊急事業(概要)

- ・掘削: 約200万m³
- ・築堤: 約16km
- ・輪中堤: 5箇所
- ・分水路: 2箇所
- ・家屋嵩上げ: 1箇所
- ・橋梁: 4箇所
- ・水門、樋門等: 27箇所
- 事業期間: H18年~H23年
- 総事業費: 375億円

出水	浸水面積 (ha)	浸水戸数(戸)		
		床上	床下	計
H18.7出水	2,777	1,816	499	2,315
R3.7出水	1,256	30	110	140



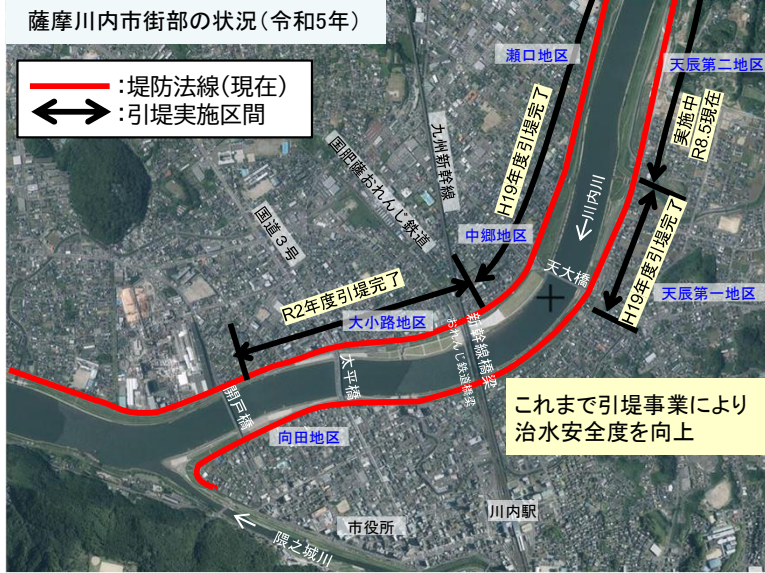
※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

流域の概要 まちづくりと一体となった引堤事業の効果

○ 薩摩川内市街部で実施したまちづくりと一体となった引堤事業では、「治水安全度の向上」や「市が実施する事業との連携によるコスト縮減」、「河川を起点とした地域の活性化」などの効果により、地域住民の安全で安心な生活を支えるとともに、地域の重要な河川空間を生み出している。

治水安全度の向上

- ・薩摩川内市街部区間は、水系内で最も資産が多いが、川幅が狭いことが治水上の懸念であった。
- ・地域と協議しつつ引堤事業を実施できたため、治水安全度が確実に向上している。



市が実施する事業との連携によるコスト縮減

- ・これまで、薩摩川内市と共に引堤事業を踏まえた区画整理事業を実施してきている。
- ・加えて、引堤事業と併せた県道整備により交通の利便性も向上している。
- ・また、引堤事業による工事発生土を堤防周辺の宅地造成に活用することでコスト縮減に繋がっている。



引堤事業と区画整理事業の工事説明会を国・市合同で実施



工事発生土を土地区画整理事業の盛土として活用

河川を起点とした地域の活性化(かわまちづくり)

- ・協議会やかわまちづくりのHP、SNS等を通じて世代を超えて地域と密な連携を図りながら環境整備事業に取り組むことで河川利用を含む地域の活性化に繋がっている。



第1回準備会の様子(R2.10.4)



地域住民の意見を踏まえた天辰地区かわまちづくり利用イメージ

②基本高水のピーク流量の検討

基本高水の設定 棄却された実績引き伸ばし降雨の再検証

- 気候変動による降雨パターンの変化(特に小流域集中度の変化)により、これまでの手法で棄却されていた実績引き伸ばし降雨波形の発生が十分予想される場合がある。このため、これまでの手法で棄却されていた実績引き伸ばし降雨波形を、当該水系におけるアンサンブル予測降雨波形による降雨パターンと照らし合わせる等により再検証を実施する。
- その結果、時間分布、地域分布により棄却した5洪水は、アンサンブル予測降雨から推定される時間分布、地域分布の雨量比(基準地点と小流域の比率)以内に収まらないため、生起し難いと判断した。

棄却された実績引き伸ばし降雨における発生の可能性を検討

短時間降雨のチェック

d2PDF(将来実験)から対象降雨量近傍(9洪水)のアンサンブル降雨波形を抽出し、各波形について、短時間(6時間)の流域平均雨量/継続時間内の流域平均雨量を求める(短時間雨量と継続時間雨量との比率)

d2PDFアンサンブル 洪水名	川内地点			
	予測雨量① (mm/12hr)	予測雨量② (mm/6hr)	②/①	
HFB.2K_CC_m105	20680707	327.7	239.7	0.73
HFB.2K_GF_m101	20650629	296.4	219.2	0.74
HFB.2K_GF_m105	20630810	283.8	179.2	0.63
HFB.2K_GF_m105	20820628	281.6	202.1	0.72
HFB.2K_GF_m105	20890725	294.2	202.3	0.69
HFB.2K_HA_m105	20720713	328.8	211.2	0.64
HFB.2K_ML_m101	20750713	313.3	191.0	0.61
HFB.2K_ML_m105	20800617	285.6	154.8	0.54
HFB.2K_MP_m105	20710906	290.6	177.6	0.61

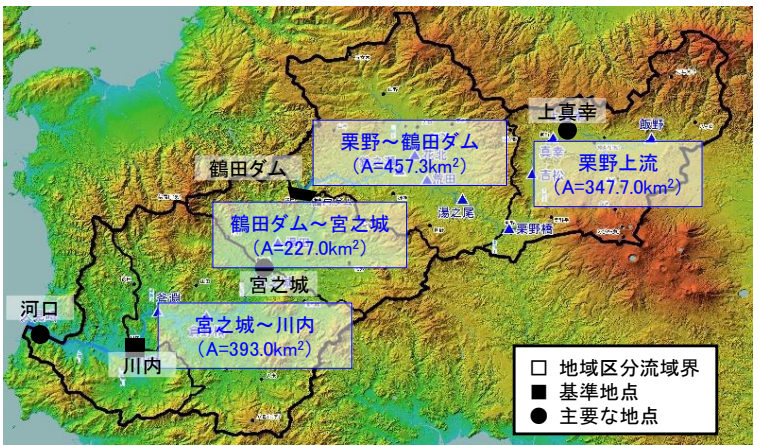
■ : 最大比率

小流域のチェック

d2PDF(将来実験)から対象降雨量近傍(9洪水)のアンサンブル降雨波形を抽出し、各波形について、継続時間内の小流域の流域平均雨量/流域平均雨量を求める(各小流域の流域全体に対する雨量の比率)

d2PDFアンサンブル 洪水名	川内地点		宮之城~川内 (A=393.0km ²)		鶴田ダム~宮之城 (A=227.0km ²)		栗野~鶴田ダム (A=457.3km ²)		栗野上流 (A=347.7km ²)	
	予測雨量① (mm/12hr)	②/①	予測雨量② (mm/12hr)	③/①	予測雨量③ (mm/12hr)	④/①	予測雨量④ (mm/12hr)	⑤/①	予測雨量⑤ (mm/12hr)	⑥/①
HFB.2K_CC_m105	20680707	0.48	327.7	1.13	370.7	1.13	437.7	1.34	348.0	1.06
HFB.2K_GF_m101	20650629	0.56	296.4	0.89	264.8	0.89	390.1	1.32	338.6	1.14
HFB.2K_GF_m105	20630810	1.26	283.8	1.40	397.5	1.40	183.2	0.65	263.5	0.93
HFB.2K_GF_m105	20820628	1.70	281.6	1.14	477.4	1.70	322.2	1.14	193.5	0.69
HFB.2K_GF_m105	20890725	1.04	294.2	1.04	470.7	1.60	256.5	0.87	208.9	0.71
HFB.2K_HA_m105	20720713	1.21	328.8	0.91	298.7	0.91	310.5	0.94	299.8	0.91
HFB.2K_ML_m101	20750713	0.44	313.3	0.44	271.6	0.87	465.5	1.49	331.7	1.06
HFB.2K_ML_m105	20800617	1.35	285.6	1.20	342.7	1.20	262.2	0.92	167.5	0.59
HFB.2K_MP_m105	20710906	1.03	290.6	1.03	299.3	1.03	261.1	0.90	316.8	1.09

■ : 最大比率



各地域区分流域等の流域平均雨量
基準地点上流域平均雨量

棄却した引き伸ばし降雨波形も同様に比率を求め、実績引き伸ばし降雨波形の比率が、アンサンブル予測降雨波形による比率と大きく逸脱していないか等のチェックを行う。

No.	洪水年月日	川内地点				
		実績雨量 (mm/12hr)	計画雨量① (mm/12hr)	拡大率	拡大後雨量 ② (mm/6hr)	②/①
5	S 47 6 27	170.5	312.0	1.830	297.0	0.95
9	S 63 7 18	168.3	312.0	1.854	272.7	0.87
14	H 9 9 16	190.9	312.0	1.634	218.4	0.70
15	H 17 9 6	184.8	312.0	1.688	197.7	0.63
18	H 23 7 6	194.2	312.0	1.607	263.3	0.84

■ : アンサンブル降雨波形と比較しても生起し難いと判断

No.	洪水年月日	川内地点		宮之城~川内 (A=393.0km ²)		鶴田ダム~宮之城 (A=227.0km ²)		栗野~鶴田ダム (A=457.3km ²)		栗野上流 (A=347.7km ²)		
		実績雨量 (mm/12hr)	計画雨量① (mm/12hr)	拡大率	拡大後雨量② (mm/12hr)	③/①	拡大後雨量③ (mm/12hr)	④/①	拡大後雨量④ (mm/12hr)	⑤/①	拡大後雨量⑤ (mm/12hr)	⑥/①
5	S 47 6 27	170.5	312.0	1.830	247.2	0.79	323.3	1.04	340.4	1.09	342.6	1.10
9	S 63 7 18	168.3	312.0	1.854	253.2	0.81	437.1	1.40	398.9	1.28	176.3	0.57
14	H 9 9 16	190.9	312.0	1.634	246.0	0.79	254.0	0.81	249.2	0.80	514.0	1.65
15	H 17 9 6	184.8	312.0	1.688	241.1	0.77	313.0	1.00	255.4	0.82	470.9	1.51
18	H 23 7 6	194.2	312.0	1.607	208.5	0.67	357.5	1.15	426.4	1.37	244.0	0.78

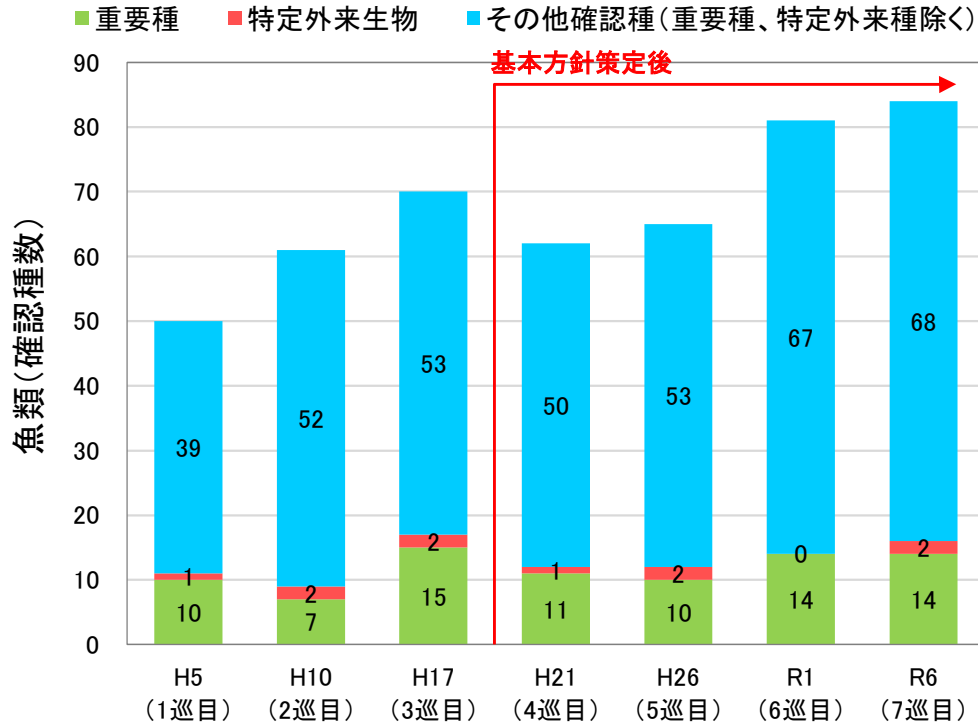
■ : アンサンブル降雨波形と比較しても生起し難いと判断

⑤河川環境・河川利用についての検討

動植物の生息・生育・繁殖環境

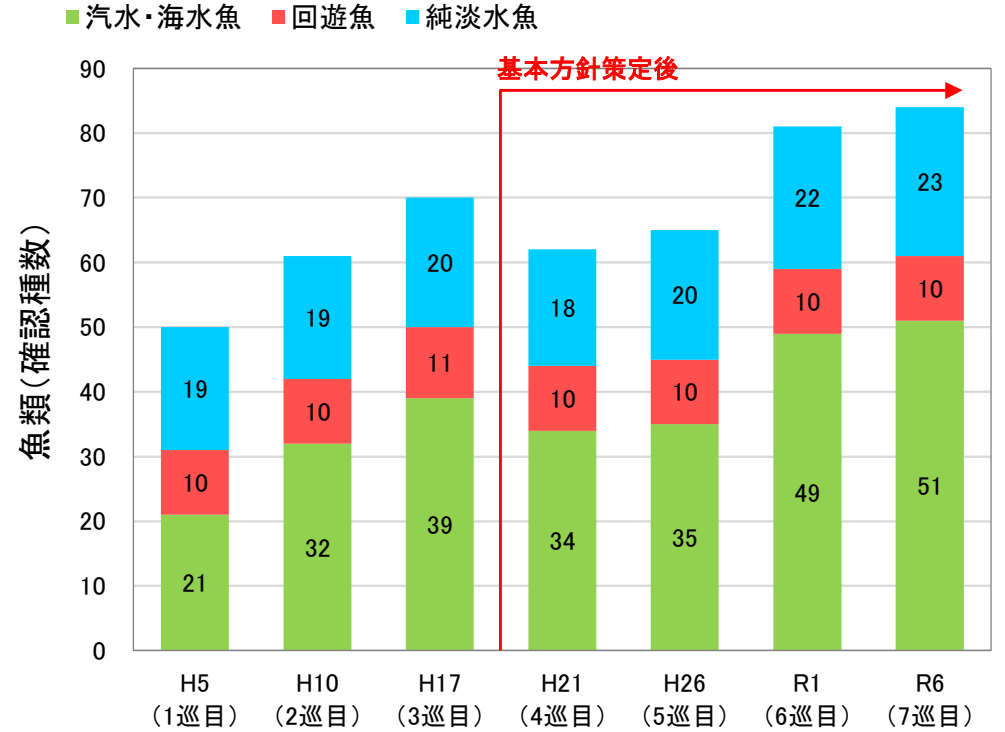
- 魚類について、重要種・特定外来種等で分類した場合と回遊型で分類した場合の変遷を整理した。
- 基本方針策定後、魚類の確認種数は増加傾向にあり、回遊型による分類によると、純淡水魚、回遊魚に大きな変化はなく、主に汽水・海水魚が増加している。
- 川内川において、汽水・海水魚の出現種数が増加している理由は現在のところ不明であり、河川水辺の国勢調査により継続してモニタリングしていく。

魚類相の変遷



※河川水辺の国勢調査(川内川水系)より整理

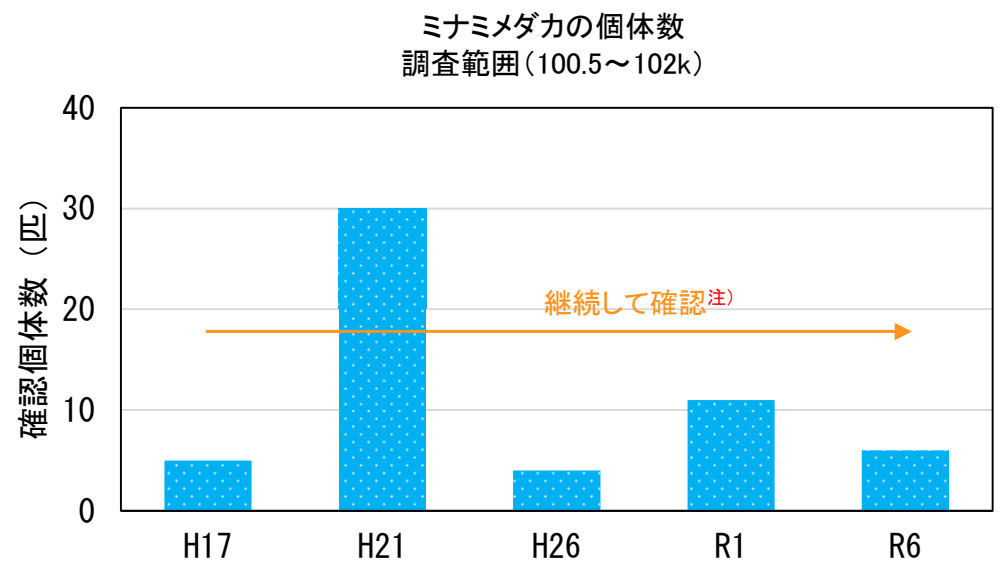
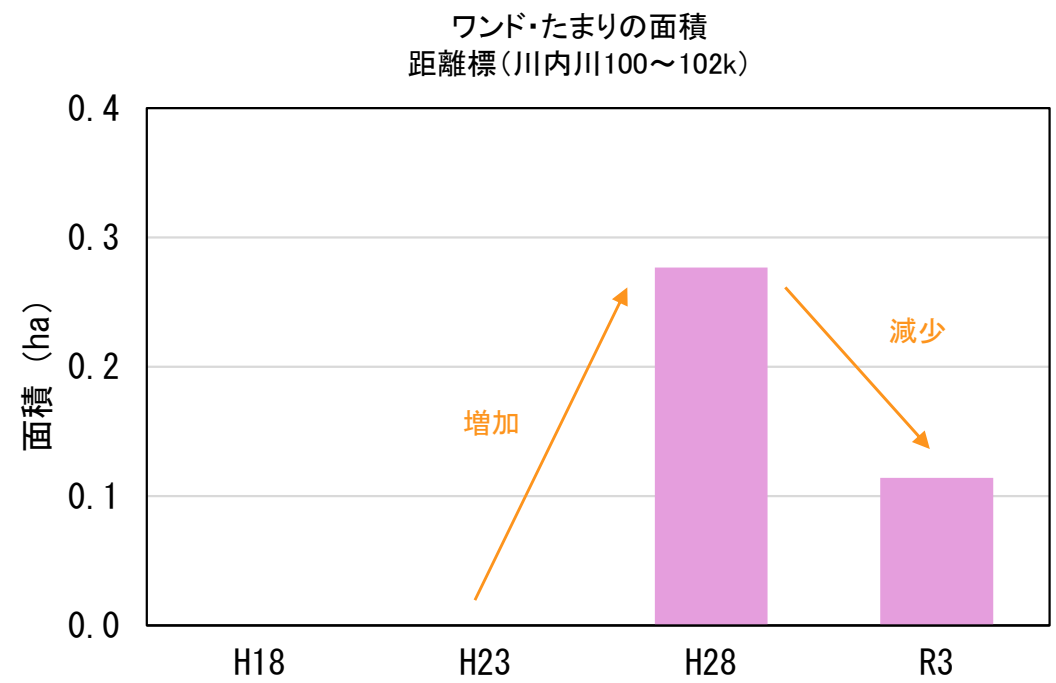
回遊型による変遷



※河川水辺の国勢調査(川内川水系)より整理

- 上流部(源流から鶴田ダム)ではワンド・たまりが広く分布しており、100～102k区間では平成28年に増加し、令和3年は減少しているが消失せず維持されている。
- ワンド・たまりを代表する重要種として、ミナメダカについて個体数の経年変化を確認した結果、変動はあるものの継続して確認されている。^{注)}

川内川上流部(源流から鶴田ダム)に生息する重要種とワンド・たまりの経年変化



※調査面積約0.2haの範囲内のワンド・たまりを調査した結果
(春～夏季、秋季ともに確認)

【調査方法】
・魚類調査は春～夏季、秋季で実施
・調査範囲内のワンド・たまりで、タモ網・投網・サデ網・定置網により網羅的に調査した種を記録

真幸堰のワンド・たまり環境(川内川100.5～102k付近)

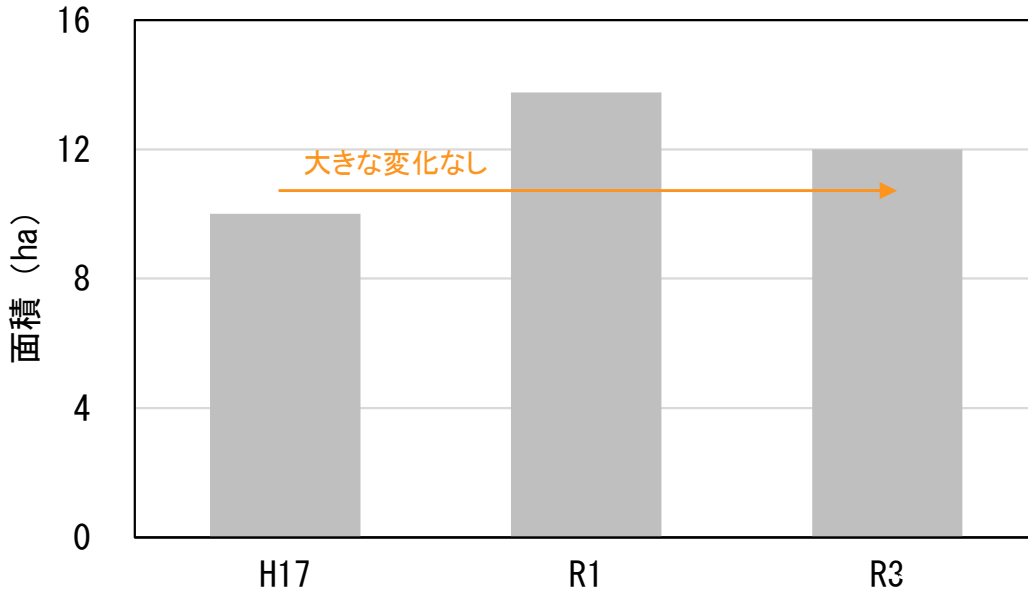


※河川水辺の国勢調査、河川環境管理シートより、近年4～5巡分(15～20年)の変化を整理した
※個体数は、国勢調査地点(真幸堰)の調査範囲で確認された個体数を示す
※調査方法は水辺の国勢調査マニュアルに準じて実施
注)重要種の全個体数を把握する調査ではないため、個体数変化の考察は参考

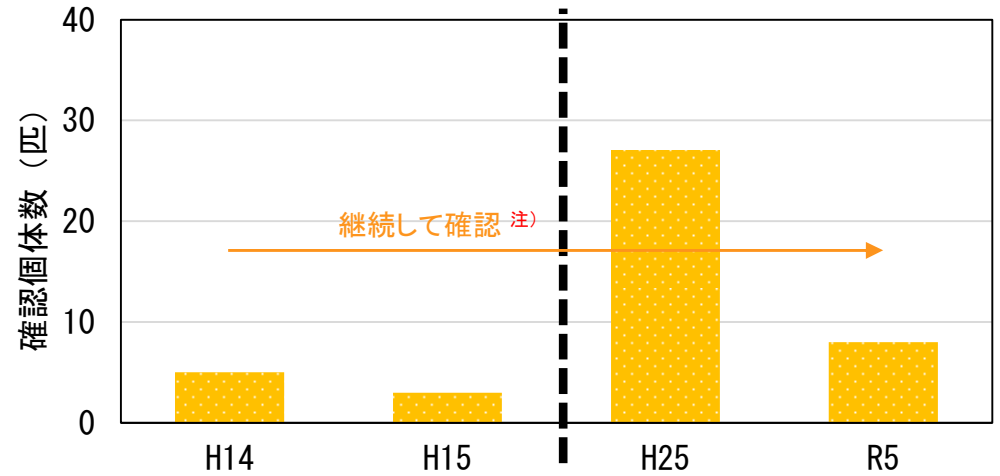
- 上流部(鶴田ダム上流)では砂礫河原が広く分布しており、大きな変化は見られない。
- 砂礫河原を代表する重要種として、イカルチドリについて個体数の経年変化を確認した結果、変動はあるものの継続して確認されている。^{注)}

川内川上流部(鶴田ダム上流)に生息する重要種と砂礫河原(自然裸地)の経年変化

砂礫河原の面積
距離標(川内川63~90k)



イカルチドリの個体数
調査範囲(63~90k)



※調査面積約15haの範囲内の砂礫河原(自然裸地)を調査した結果
(繁殖期、渡り期、越冬期すべてで確認)
※ H14~H15とH25~R5では調査方法が異なるため、個体数の単純比較を行わない

【調査方法】

- ・鳥類調査は繁殖期、渡り期、越冬期で実施
- ・調査範囲内の砂礫河原(自然裸地)で、ラインセンサス法(H14~H15)・スポットセンサス法(H25~R5)により網羅的に調査した種を記録

上流部(鶴田ダム上流):63~90kの砂礫河原環境(川内川69.8~70.2k付近)



H25.6撮影



R5.7撮影

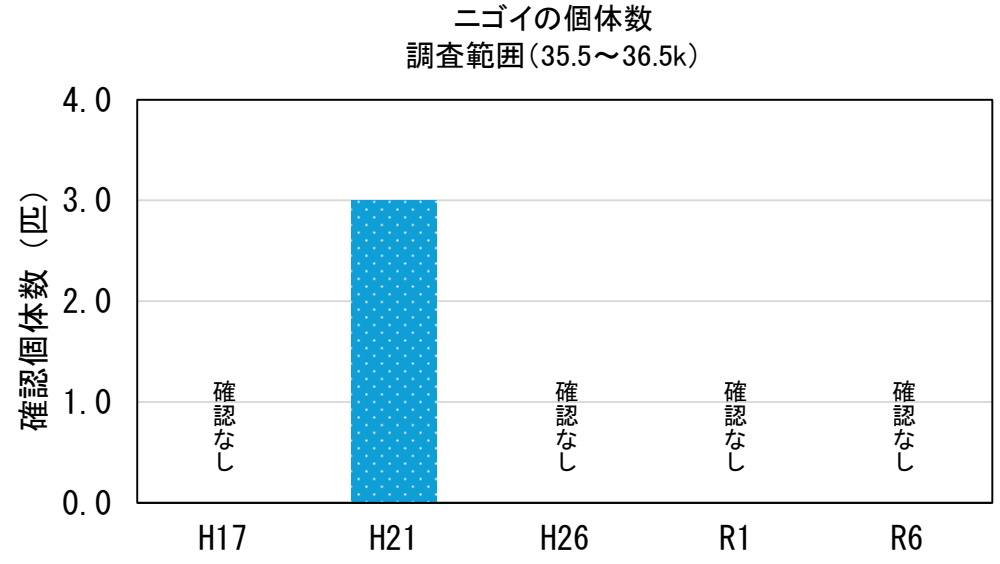
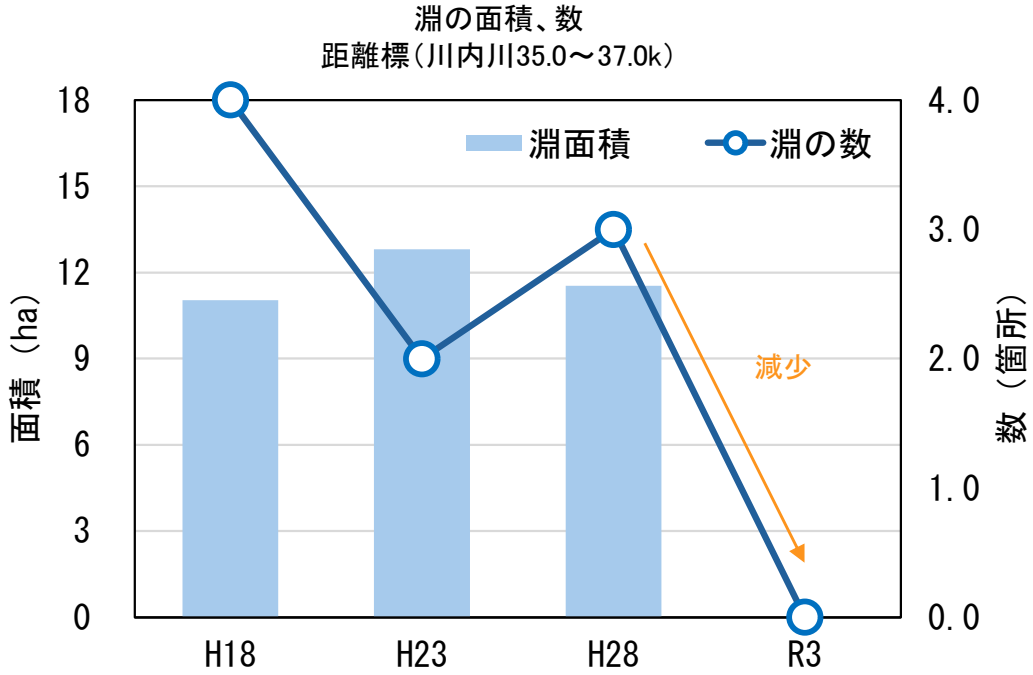
※河川水辺の国勢調査、河川環境管理シートより、近年4~5巡分(15~20年)の変化を整理した
※個体数は、国勢調査地点(上流部(鶴田ダム上流):63~90k)の調査範囲で確認された個体数を示す

※調査方法は水辺の国勢調査マニュアルに準じて実施

注)重要種の全個体数を把握する調査ではないため、個体数変化の考察は参考

- 中流部では瀬と淵が連続して分布しており、35.0～37.0k区間では近年減少している。
- 淵を代表する重要種として、ニゴイについて個体数の経年変化を確認した結果、平成21年でのみ確認された個体数は3匹と少なかった。^{注)}

川内川中流部に生息する重要種と淵の経年変化



※調査面積約10haの範囲内の淵を調査した結果 (秋季で確認)

- 【調査方法】
- ・魚類調査は春～夏季、秋季で実施
 - ・調査範囲内の淵で、投網・はえなわにより網羅的に調査した種を記録

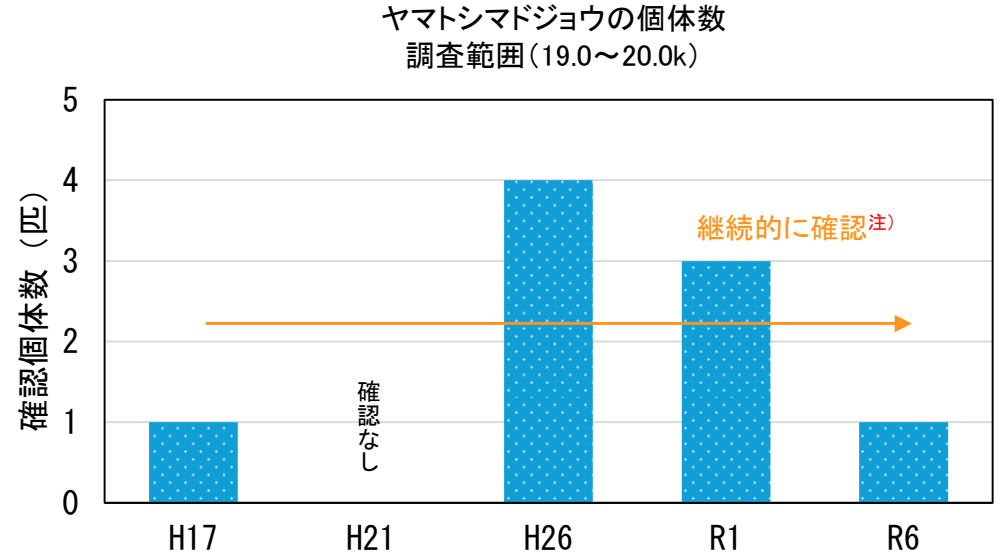
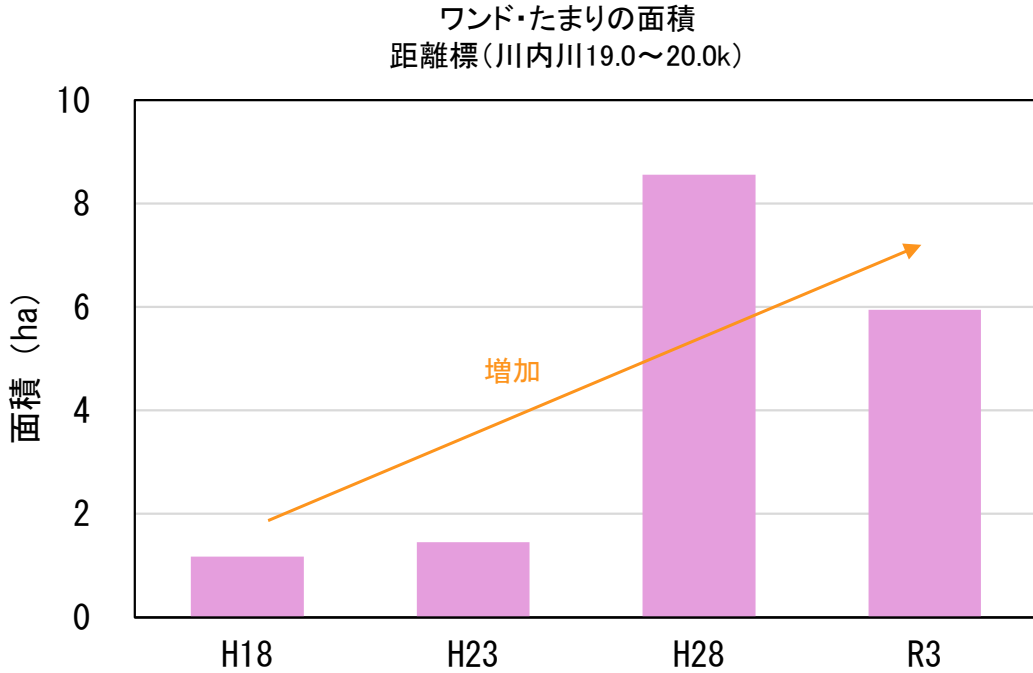
宮之城の淵環境(川内川35.5～36.5k付近)



※河川水辺の国勢調査、河川環境管理シートより、近年4～5巡分(15～20年)の変化を整理した
 ※個体数は、国勢調査地点(宮之城)の調査範囲で確認された個体数を示す
 ※調査方法は水辺の国勢調査マニュアルに準じて実施
 注)重要種の全個体数を把握する調査ではないため、個体数変化の考察は参考

- 下流部のうち、19.0～20.0k区間に大きなワンド・たまりが分布しており、増減はあるものの近年にかけて増加している。
- ワンド・たまりを代表する重要種として、ヤマトシマドジョウについて個体数の経年変化を確認した結果、近年まで継続的に確認されている。^{注)}

川内川下流部(感潮区間)に生息する重要種とワンド・たまりの経年変化



※調査面積約5haの範囲内のワンド・たまりを調査した結果
(春～夏季、秋季ともに確認)

【調査方法】

- ・魚類調査は春～夏季、秋季で実施
- ・調査範囲内のワンド・たまりで、タモ網・投網・定置網・刺網・潜水観察により網羅的に調査した種を記録

斧淵のワンド・たまり環境(川内川19.0～20.0k付近)



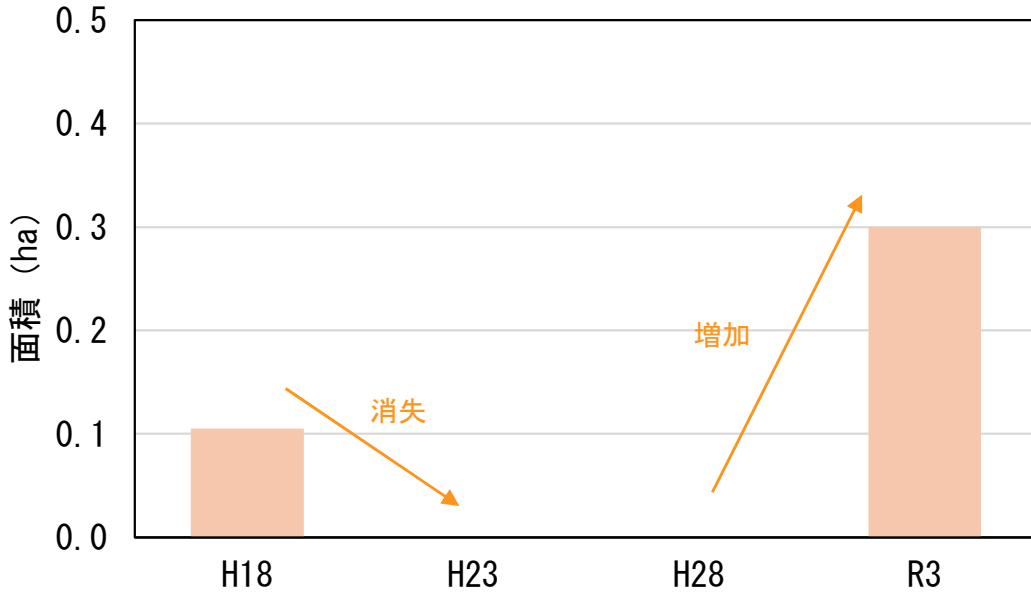
※河川水辺の国勢調査、河川環境管理シートより、近年4～5巡分(15～20年)の変化を整理した
 ※個体数は、国勢調査地点(斧淵)の調査範囲で確認された個体数を示す
 ※調査方法は水辺の国勢調査マニュアルに準じて実施
 注)重要種の全個体数を把握する調査ではないため、個体数変化の考察は参考

河川環境の整備と保全 生物の個体数及び生息場の変遷【下流部(感潮区間)】

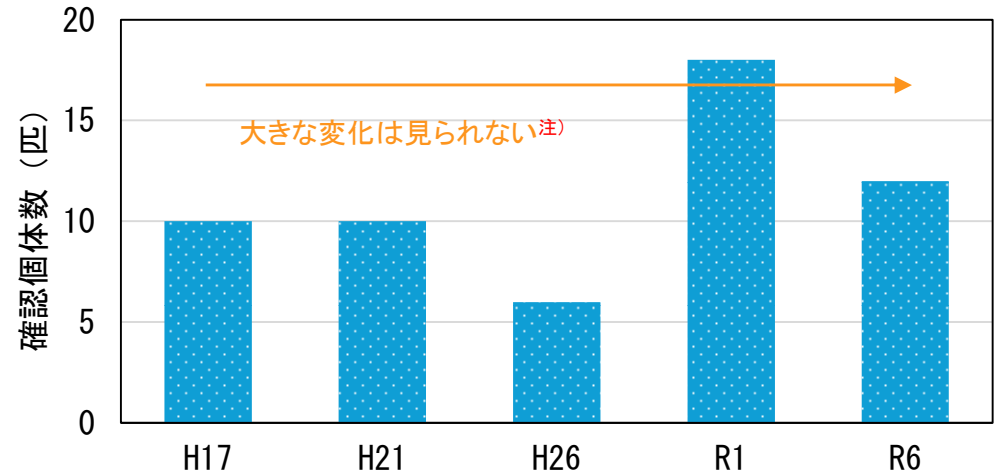
- 川内川下流部(感潮区間)では干潟が広く分布しており、距離標によって増減が見られる。5.0~7.0k区間では、平成23年に一度消失したが令和3年に増加した。
- 干潟を代表する重要種として、トビハゼについて個体数の経年変化を確認した結果、大きな変化は見られない。^{注)}

川内川下流部(感潮区間)に生息する重要種と干潟の経年変化

干潟の面積
距離標(川内川5.0~7.0k)



トビハゼの個体数
調査範囲(5.5k~6.5k)



※調査面積約0.3haの範囲内の干潟を調査した結果
(春~夏季、秋季ともに確認)

【調査方法】

- ・魚類調査は春~夏季、秋季で実施
- ・調査範囲内の干潟で、タモ網・サデ網・定置網により網羅的に調査した種を記録

高江の干潟環境(川内川5.5k~6.5k付近)

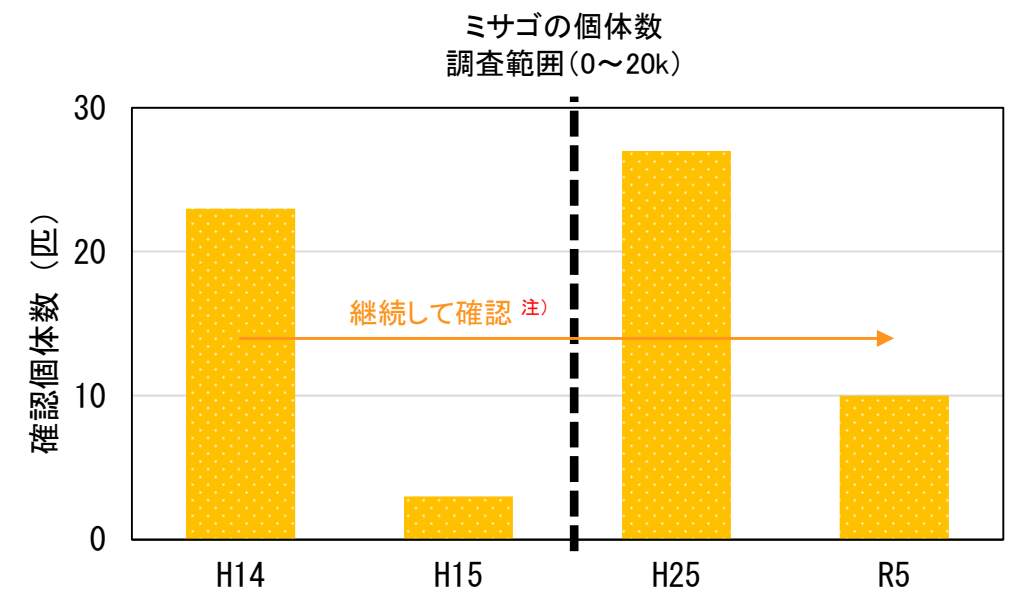
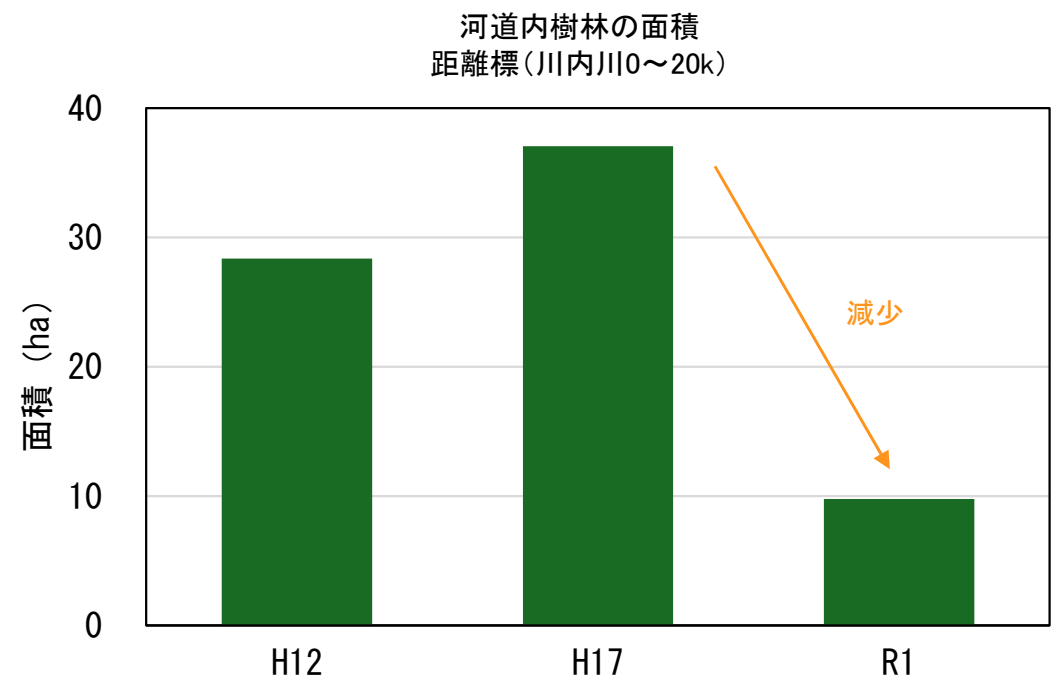


※河川水辺の国勢調査、河川環境管理シートより、近年4~5巡分(15~20年)の変化を整理した
 ※個体数は、国勢調査地点(高江)の調査範囲で確認された個体数を示す
 ※調査方法は水辺の国勢調査マニュアルに準じて実施
 注)重要種の全個体数を把握する調査ではないため、個体数変化の考察は参考

河川環境の整備と保全 生物の個体数及び生息場の変遷【下流部(感潮区間)】

- 下流部のうち、1.0～9.0k及び13.0～20.0k区間に河道内樹林が広く分布しており、距離標によって増減が見られ、近年は減少している。
- 河道内樹林を代表する重要種として、ミサゴについて個体数の経年変化を確認した結果、変動はあるものの継続して確認されている。^{注)}

川内川下流部(感潮区間)に生息する重要種と河道内樹林の経年変化



※調査面積約30haの範囲内の河道内樹林周辺を調査した結果
 (渡り期、越冬期、越冬期すべてで確認)
 ※ H14～H15とH25～R5では調査方法が異なるため、個体数の単純比較を行わない

【調査方法】
 ・鳥類調査は繁殖期、渡り期、越冬期で実施
 ・調査範囲内の河道内樹林周辺で、ラインセンサス法(H14～H15)・スポットセンサス法(H25～R5)により網羅的に調査した種を記録

下流部:0～20kの河道内樹林環境(川内川16.0～16.4k付近)



※河川水辺の国勢調査、河川環境管理シートより、近年4～5巡分(15～20年)の変化を整理した
 ※個体数は、国勢調査地点(下流部:0～20k)の調査範囲で確認された個体数を示す
 ※調査方法は水辺の国勢調査マニュアルに準じて実施
 注)重要種の全個体数を把握する調査ではないため、個体数変化の考察は参考

川内川河川環境管理シート(中流部)

保全区間 代表区間

a) 生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)

距離標(空間単位:1km)	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50		
大セグメント区分	セグメント2-1																																
河川環境区分	中流部(鶴田ダムから感潮区間)																																
典型性	1. 低・中蓋草地	○	○	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	2. 河辺性の樹林・河畔林	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	3. 自然裸地	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	4. 外来植物生育地	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	5. 水生植物帯	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	6. 水際自然度	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	7. 水際の複雑さ	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	8. 連続する瀬と淵	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	9. ワンド・たまり	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	10. 湛水域	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	11. 干潟	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	12. ヨシ原	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
生息場の多様性の評価値	8	5	2	3	2	8	6	3	5	0	2	3	7	2	4	1	3	3	3	4	2	6	5	1	6	2	0	0	0	0			

b) 生物との関わり強さの評価

距離標(空間単位:1km)	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	
河川環境区分	中流部(鶴田ダムから感潮区間)																															
重要種数	魚類(H31)	8 8																														
	底生動物(R2)	16																														
	植物(H30)	3 31																														
	鳥類(H25)	2	2	1	1	2	1	2	1	2	1	3	3	1	1	2	1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	両・爬・哺(R4)	6 6																														
陸上昆虫類(H28・29)	16 16																															
重要種全体合計	0	0	2	2	1	1	2	1	0	2	0	1	0	3	3	3	8	0	1	0	0	2	0	1	0	0	1	2	1	1	1	0
特徴つげり種・依存する生息場の数	ミナミメダカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	魚類	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	ワンド・たまり	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	ヤマトシマドジョウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	ワンド・たまり	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
鳥類	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
イカルチドリ	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
自然裸地	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
生物との関わり強さの評価値	4	0	2	2	0	0	4	4	2	2	0	0	2	2	2	0	2	2	2	0	2	0	4	2	0	2	0	0	0	2		

※河川水辺の国勢調査で確認された重要種数・個体数を示す。

c) 代表区間の選定

距離標(空間単位:1km)	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	
河川環境区分	中流部(鶴田ダムから感潮区間)																															
生息場の多様性の評価値	8	5	2	3	2	8	6	3	5	0	2	3	7	2	4	1	3	3	3	4	2	6	5	1	6	2	0	0	0	0		
生物との関わり強さの評価値	4	0	2	2	0	0	4	4	2	2	0	0	2	2	2	0	2	2	2	0	2	0	4	2	0	2	0	0	0	2		
代表区間候補の抽出	A	A				A						B																				
候補の抽出理由	A: 評価値が両方とも1位/B: 評価値が両方とも2位以上の箇所を候補地として選定。																															
橋の有無	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
代表区間の選定結果	*																															

d) 保全区間の選定

距離標(空間単位:1km)	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	
河川環境区分	中流部(鶴田ダムから感潮区間)																															
保全区間候補の抽出	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
候補の抽出理由	マナヅルのねぐらとして利用されている区間を候補地とした。																															
保全区間の選定結果	*																															

【河川環境の現状】

- 鶴田ダムから感潮区間までの中流部は、山間部を蛇行しながら流れている。
- 流れは比較的速く、瀬・淵やワンド・たまり、砂礫河原や水際草地、崖地、河畔林や田畑等の多様な環境が縦横断的に連続していることから、多様な動植物の生息・生育・繁殖地となっており、絶滅危惧種のマナヅルのねぐらにも利用されている。
- 瀬にはアユの産卵場が形成され、淵にはニゴイ、水際の緩流域にはカワニナ等の貝類、カワニナを餌とするゲンジボタルが生息・繁殖している。
- 河岸に繁茂するアラカシやメダケ等の河畔林はカワセミ等鳥類の止まり木や、ゲンジボタルの生息場となっている。

【保全・創出】

- 絶滅危惧種のマナヅルがねぐらとして利用している砂礫河原、ワンド・たまりを保全・創出する。
- アユ等が生息・繁殖する瀬、ニゴイが生息・繁殖する淵、カワニナ等の貝類、カワニナを餌とするゲンジボタル(幼虫)等が生息・繁殖する水際の緩流域を保全・創出する。
- カワセミ等鳥類の止まり木、ゲンジボタルの生息場となる河畔林を保全する。



川内川河川環境管理シート(下流部)

保全区間

代表区間

a) 生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)

距離標(空間単位: 1km)		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
大セグメント区分																							
河川環境区分																							
下流部(感潮区間)																							
典型性	陸域	1. 低・中草地	△	△	△	○	○	△	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	△	○	△	○	
	水際域	2. 河辺性の樹林・河畔林	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		3. 自然裸地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		4. 外来植物生育地	-	×	△	△	△	×	×	×	×	△	△	×	×	×	×	△	△	△	△	△	△
	水域	5. 水生植物帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		6. 水際の自然度	△	△	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
		7. 水際の複雑さ	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
	汽水	8. 連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		9. ワンド・たまり	-	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○
		10. 湛水域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	生息場の多様性の評価値		1	2	2	2	2	1	0	3	3	1	1	1	0	-1	0	2	4	4	2	5	

b) 生物との関わり強さの評価

距離標(空間単位: 1km)		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19			
河川環境区分																								
下流部(感潮区間)																								
重要種数	魚類(H31)																							
	底生動物(R2)		1																			7		
	植物(H30)			7				1						12	11							16		
	鳥類(H25)	6	6	11	3	15	3	2	4	3						2	2	1	1	1	3	2		
	両・爬・哺乳										1	1												
	陸上昆虫類(H28・29)	5									9	9										7		
重要種全体合計		11	20	18	3	15	15	13	26	24	0	0	0	0	0	2	2	1	1	1	35			
特微づける種と依存する種(全目録)の生息場の	魚類	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	汽水域	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	ワンド・たまり	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○		
	鳥類	○	○	○	1	4	1	7	1	7	8	1	0	2	5	4	1	2	2	5	○	○		
	ヨシ原																				△	○	△	○
	両・爬・哺乳	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
生物との関わり強さの評価値		1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	4	2	4			

生物との関わり強さに関するコメント
 ・河川水辺の国勢調査の全体計画で注目すべき種に挙げられている種を中心に選定。
 ・アユは手引き【参考】依存する生息場では、「連続する瀬と淵」が生息場に指定されているが、ここでは汽水域が生息場の一部とする種として扱った。
 ・鳥類及び哺乳類は、川内川下流部に代表的なヨシ原に生息するセッカ、カヤネズミを選定した。

c) 代表区間の選定

距離標(空間単位: 1km)		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
河川環境区分																						
下流部(感潮区間)																						
生息場の多様性の評価値		1	2	2	2	2	1	0	3	3	1	1	1	0	-1	0	2	4	4	2	5	
生物との関わり強さの評価値		1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	4	2	4	
代表区間候補の抽出																						
候補の抽出理由		A: 評価値が両方とも1位/B: 評価値が両方とも2位以内の箇所を候補地として選定。																				
候補の有無		●						●				●	●							●	●	
代表区間の選定結果																						★

d) 保全区間の選定

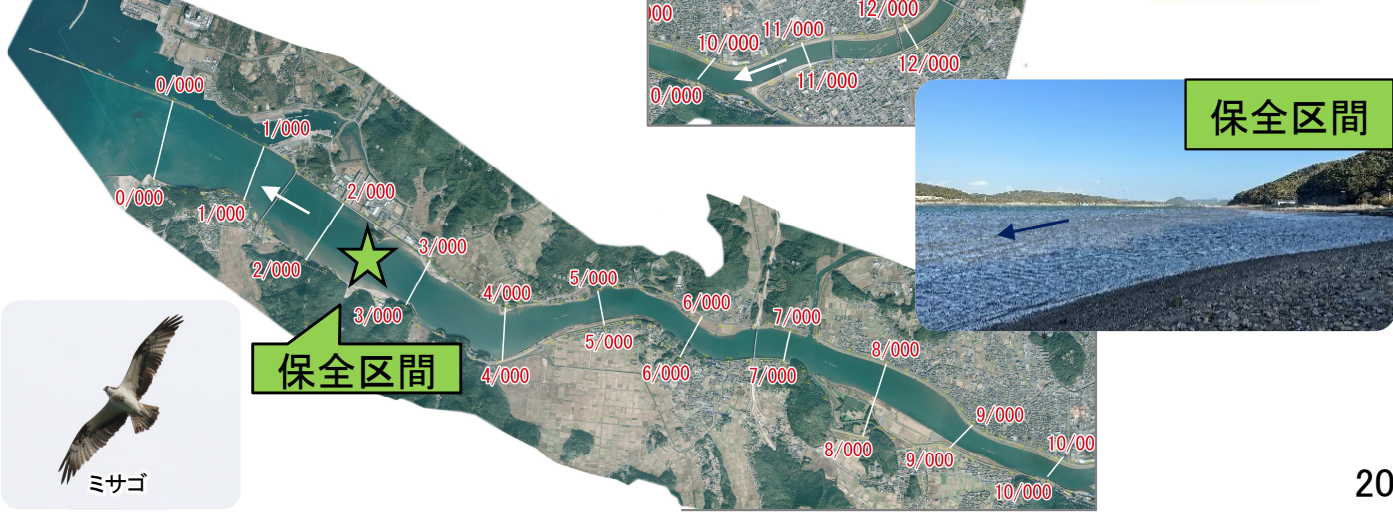
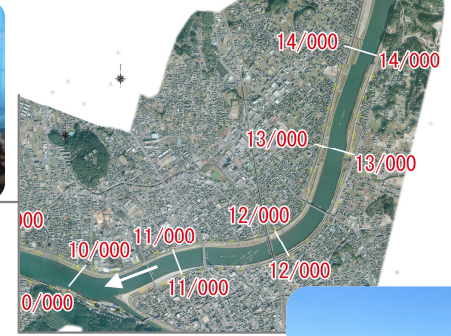
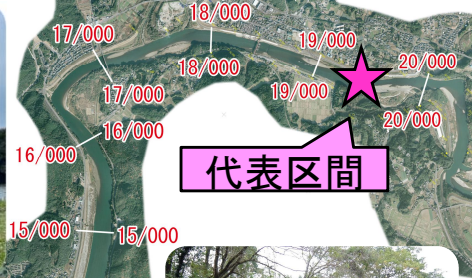
距離標(空間単位: 1km)		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
河川環境区分																						
下流部(感潮区間)																						
保全区間候補の抽出			●	●																		
候補の抽出理由		生物の重要な生息環境(干潟)が分布する区間を候補地として選定した。																				
保全区間の選定結果			★																			

【河川環境の現状】

- 感潮区間である下流部は、緩やかな流れの開放水面が広がり、瀬や淵はほとんどない。
- 河床材料は主に砂であり、感潮区間の上端付近では礫が多く、19.0k付近の左岸には、絶滅危惧種のヤマトシマドジョウ等の魚類が生息・繁殖する大きなワンドが形成されている。
- 潮汐の影響により2.0k付近の左右岸には、干潮時に砂質の干潟が出現し、トビハゼ等の魚類やケフサイソガニ等の底生動物が生息・繁殖している。
- 河口付近の塩沼地にはハマボウが生育し、山地にはスダジイ、アラカシ等の樹林が繁茂し、ミサゴ等が生息している。

【保全・創出】

- 絶滅危惧種のヤマトシマドジョウ等の魚類が生息・繁殖する砂河床のワンド・たまりを保全・創出する。
- トビハゼ等の魚類やケフサイソガニ等の底生動物が生息・繁殖する砂質の干潟を保全する。
- ハマボウが生育する塩沼地、ミサゴ等が生息・繁殖するスダジイ、アラカシ等の樹林を保全する。



川内川における治水と環境の両立を目指した掘削

川内川河川環境管理シート(上流部②)

保全区間 (山付き樹林)

代表区間

河川環境区分(セグメント形成要因)

距離標(空間単位:1km)※	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116		
※距離標1:1~2km区間																													
河川環境区分	上流部(源流から鶴田ダム)																												
河川区分	上流部																												
大セグメント区分	セグメント2-1																												
小セグメント区分																													
堤内地の景観 右岸側	農地	山地	農地	山地	農地																								
堤内地の景観 左岸側	山地	農地	山地	農地																市街地									
周辺の地形・地質	平地																												
河床勾配(平均河床高)	[勾配図]																												
河床材料	礫																												
川幅(河道幅・水面幅)	[川幅図]																												
横断工作物	□阿波井堰																	□真幸堰	□堂本堰										
支川の合流	●長江川																												
特徴的な狭窄部																													

生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)

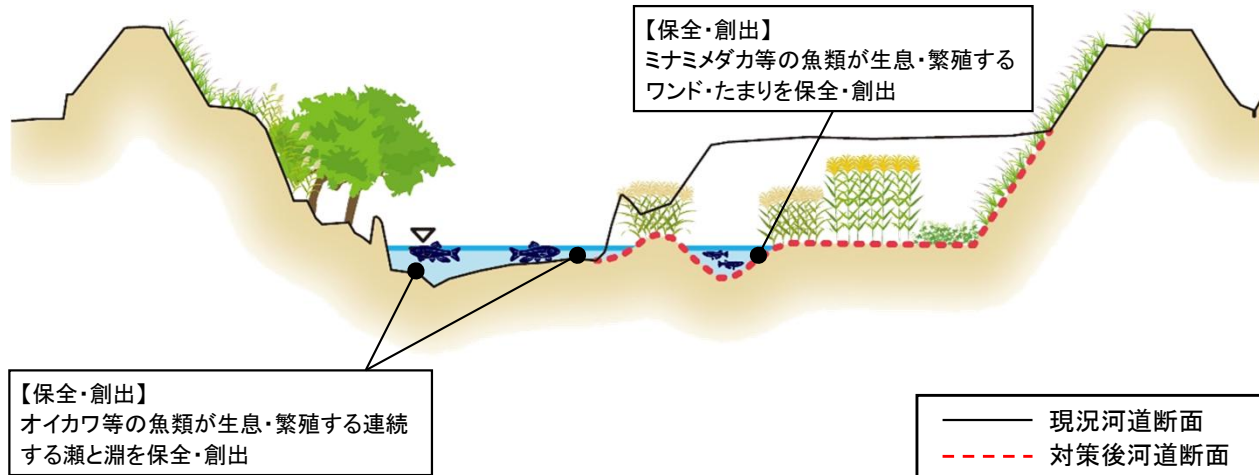
距離標(空間単位:1km)	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116
陸域	△	△	○	△	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	△	△	△	△	○	○	○	△	△	△	△	△
水域	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生息場の多様性の評価値	4	5	5	4	4	6	4	4	3	3	2	3	1	3	4	3	2	-1	2	4	1	2	1	1	4	3	3

河川事業の実施状況_予定区間

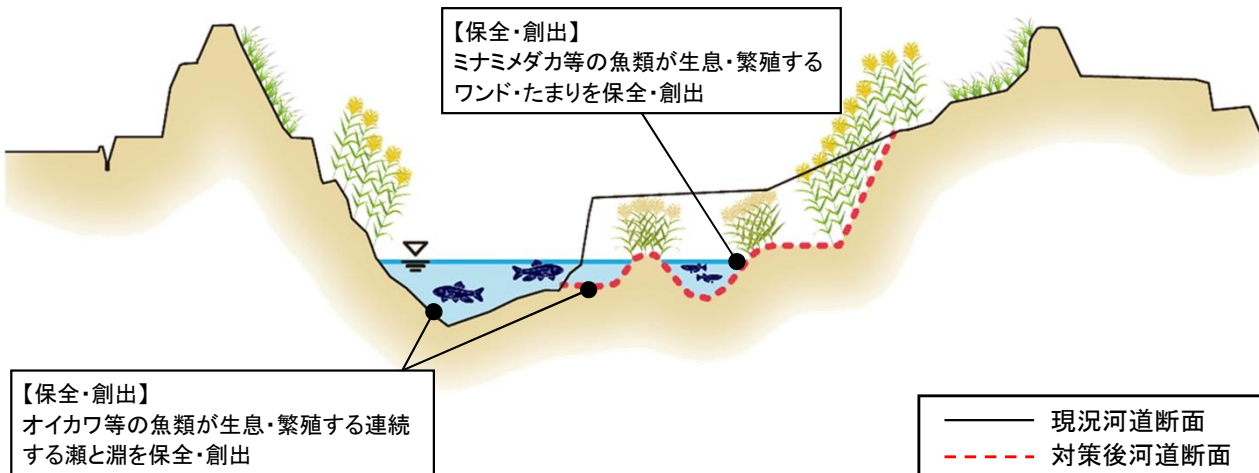
距離標(空間単位:1km)	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	
陸域	[掘削計画]																											
水域	[掘削計画]																											

河道掘削にあたっては平水位に限らず目標とする河道内氾濫原の生態系に応じて掘削深や形状を工夫するとともに、河川が有している自然の営力を活用する

良好な河川環境を有する区間における環境の保全・創出の概念図(川内川 95.8k付近)



掘削箇所における環境の保全・創出の概念図(川内川 100.2k付近)



掘削後もモニタリングを実施し、順応的な対応を行う

川内川河川環境管理シート(上流部①)

保全区間

代表区間

河川環境区分(セグメント形成要因)

距離標(空間単位:1km)	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	
略図	[略図: 川内川、海軍堰、綿打川、羽月川]																											
河川環境区分	上流部(上流から橋田ダム)																											
河川区分	上流部																											
大セグメント区分	セグメント2-2														セグメント2-2													
小セグメント区分	[右岸側: 市街地, 農地, 山地, 市街地, 山地, 農地, 山地, 農地]														[左岸側: 山地, 農地, 市街地]													
周辺の地形・地質	平地														旧川微高地, 平地													
河床勾配(平均河床高)	1/91,250							1/1,760							1/1,370							1/1,270						
河床材料	礫																											
川幅(河道幅・水面幅)	[河道幅(km), 水面幅(km)の線グラフ]																											
横断工作物	口湯之尾堰																											
支川の合流	●羽月川														●綿打川													

生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)

距離標(空間単位:1km)	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89
陸域	1. 低・中草草地	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
水際	2. 河辺性の樹林・河畔林	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
水	3. 自然裸地	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
水際	4. 外来植物生育地	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
水	5. 水生植物帯	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
水際	6. 水際の自然度	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水	7. 水際の複雑さ	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
水際	8. 連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
水	9. ワンド・たまり	○	△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
水	10. 湛水域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
汽	11. 干潟	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
水	12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
生息場の多様性の評価値	2	4	5	3	1	1	0	2	0	1	2	1	1	0	2	0	2	2	3	2	3	4	3	6	6	2	4

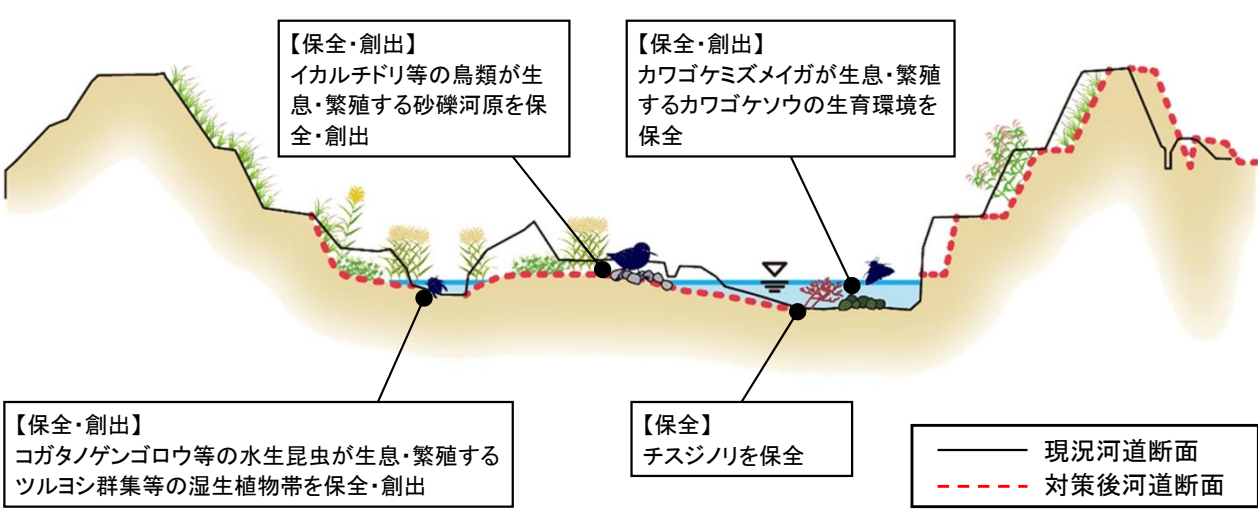
注) 生息場の多様性の評価値は、全12の中央値を基準として陸域・水際部・水域の物理環境を○・△・×で評価し、○の数から×の数を差引いた数値。

河川事業の実施状況、予定区間

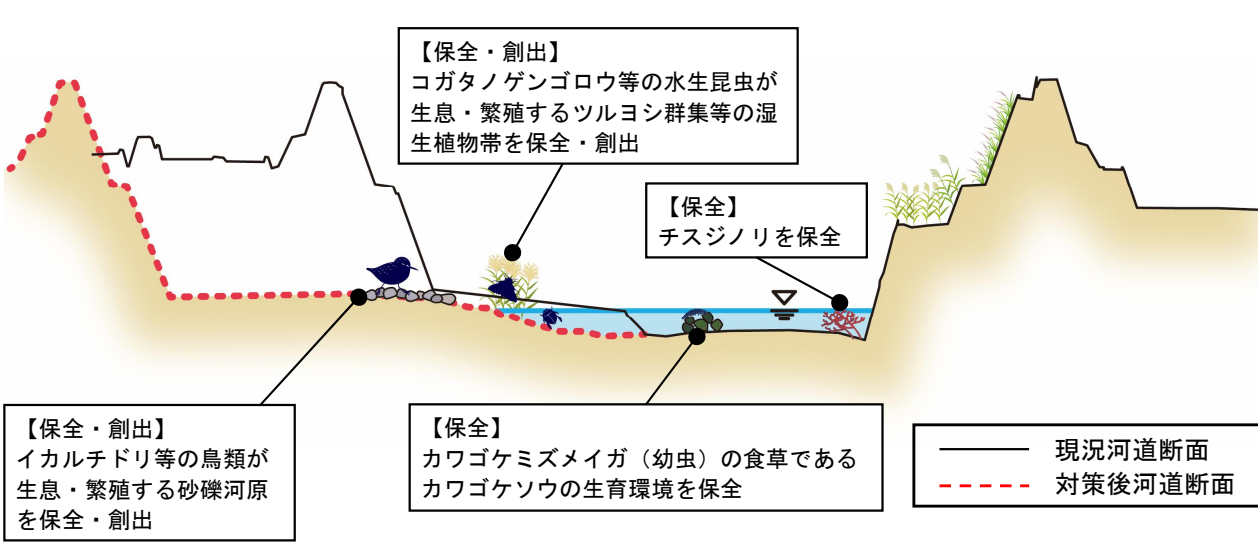
距離標(空間単位:1km)	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	
河川事業の予定区間	[陸域/水域の区間、引堤、河道掘削の位置]																											

河道掘削にあたっては平水位に限らず目標とする河道内氾濫原の生態系に応じて掘削深や形状を工夫するとともに、河川が有している自然の営力を活用する

良好な河川環境を有する区間における環境の保全・創出の概念図(川内川 87.0k付近)

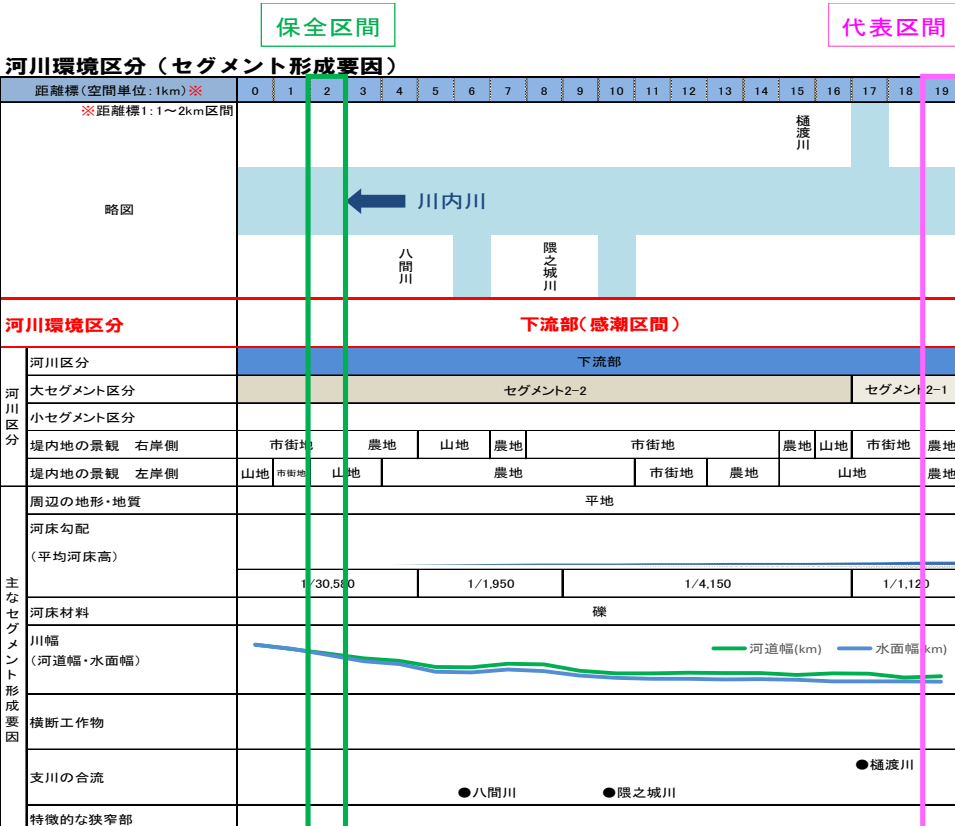


掘削箇所における環境の保全・創出の概念図(川内川 71.4k付近)



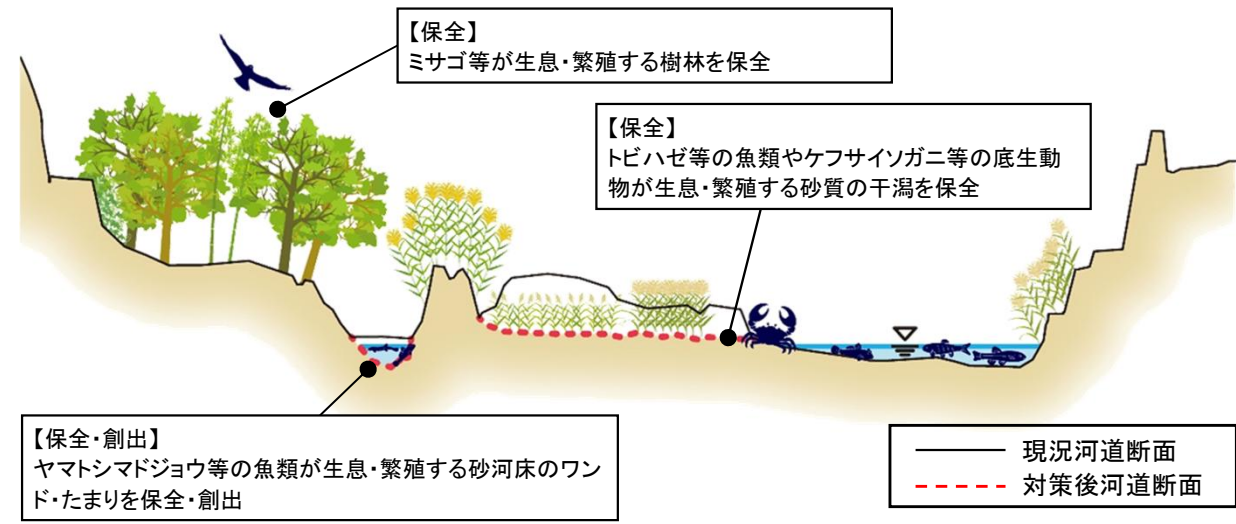
掘削後もモニタリングを実施し、順応的な対応を行う

川内川河川環境管理シート(下流部)

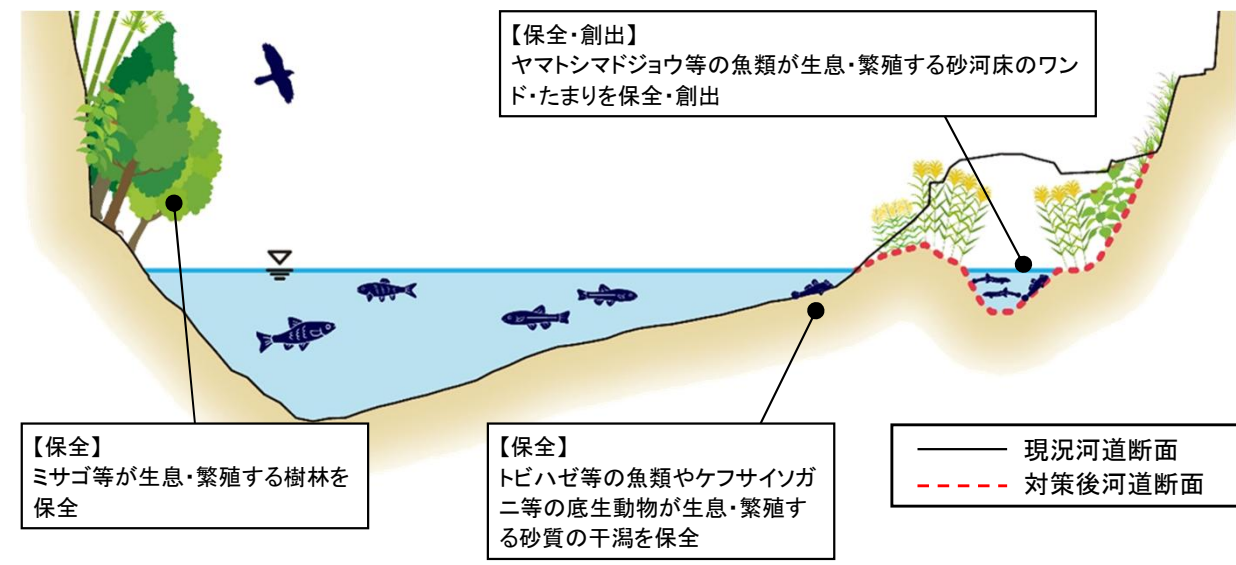


河道掘削にあたっては平水位に限らず目標とする河道内氾濫原の生態系に応じて掘削深や形状を工夫するとともに、河川が有している自然の営力を活用する

良好な河川環境を有する区間における環境の保全・創出の概念図(川内川 19.8k付近)



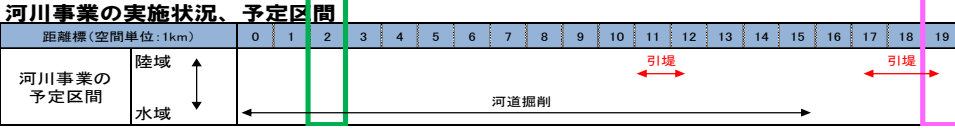
掘削箇所における環境の保全・創出の概念図(川内川 5.8k付近)



生息場の多様性の評価(大セグメントの中央値に基づき評価)

距離標(空間単位:1km)	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
陸域	1. 低・中葎草地	△	△	△	○	○	△	○	○	△	△	○	△	△	○	○	△	△	○	△	○
	2. 河辺性の樹林・河畔林	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	3. 自然裸地	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4. 外来植物生育地	×	△	△	△	×	×	×	×	×	△	△	×	×	×	×	△	△	△	△	△
水域	5. 水生植物帯	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6. 水際の自然度	△	△	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○
	7. 水際の複雑さ	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△
汽水域	8. 連続する瀬と淵	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	9. ワンド・たまり	-	○	△	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○
水	10. 湛水域	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	11. 干潟	-	○	○	△	△	△	△	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	12. ヨシ原	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	○	△
生息場の多様性の評価値	1	2	2	2	2	1	0	3	3	1	1	1	0	-1	0	2	4	4	2	5	

注) 生息場の多様性の評価値は、全川の中央値を基準として陸域・水際部・水域の物理環境を○・△・×で評価し、○の数から×の数を差し引いた数値。



掘削後もモニタリングを実施し、順応的な対応を行う

本文掲載種の根拠資料

河川名	本文(一部抜粋)赤文字:重要種、青文字:重要種以外	区分	分類	掲載種等*	確認年度	
川内川	源流から鶴田ダムまでの上流部は、中流域に比べて川幅が狭く、河床勾配が急なため早瀬が多く、ワンド・たまりには絶滅危惧種の ミナミメダカ 、瀬・淵には オイカワ 等の魚類が生息・繁殖している。河床材料は主に礫であり、整備された護岸と自然河岸が混在するが、砂礫河原や水際草地等の環境が連続し、真幸堰の上流には湛水域が広がる。阿波溪谷は、河床は巨石で瀬が連続し、両岸は アラカシ群落 等の山付き樹林に囲まれている。鶴田ダム上流部は、山間部を蛇行しながら流れており、河床材料は主に礫で、流れは比較的速く、瀬・淵、湛水域が見られる。早瀬は少なく、平瀬が多く存在し、 イカルチドリ が生息する砂礫河原や絶滅危惧種の コガタノゲンゴロウ が生息・繁殖する ツルヨシ群集 等の湿生植物帯が分布している。湯の尾滝から曾木の滝までの区間を中心に、国指定天然記念物である チスジノリ発生地 があり、絶滅危惧種で鹿児島県指定天然記念物の カワゴケソウ が生育し、 カワゴケソウ を食草とする カワゴケミズメイガ が生息・繁殖している。	上流部 (源流から鶴田ダム)	植物	アラカシ群落	河川水辺の国勢調査H12,H18,H23,H28	
			魚類	オイカワ	河川水辺の国勢調査H5,H10,H17,H21,H26,R1,R6	
			魚類	ミナミメダカ(環VU、鹿NT、宮CR-r)	河川水辺の国勢調査H5,H17,H21,H26,R1,R6	
		上流部 (鶴田ダム上流)	植物	ツルヨシ群集	河川水辺の国勢調査H12,H18,H23,H28	
			植物	チスジノリ発生地(国天)	河川水辺の国勢調査H7,H11,H20,H21,H23,H28,R3	
			植物	カワゴケソウ(県天、環EN、鹿VU、宮CR-r)	河川水辺の国勢調査H12	
			鳥類	イカルチドリ(鹿VU、宮NT-r)	河川水辺の国勢調査H9,H14,H15,H25,R5	
			陸上昆虫類	コガタノゲンゴロウ(環VU、宮OT-1)	河川水辺の国勢調査H11,H28	
			陸上昆虫類	カワゴケミズメイガ(環NT、鹿NT、宮VU-r)	河川水辺の国勢調査H6,H11	
		中流部 (鶴田ダムから感潮区間)	鶴田ダムから感潮区間までの中流部は、山間部を蛇行しながら流れている。流れは比較的速く、瀬・淵やワンド・たまり、砂礫河原や水際草地、崖地、河畔林や田畑等の多様な環境が縦横断的に連続していることから、多様な動植物の生息・生育・繁殖地となっており、絶滅危惧種の マナヅル のねぐらにも利用されている。瀬には アユ の産卵場が形成され、淵には ニゴイ 、水際の緩流域には カワニナ 等の貝類、 カワニナ を餌とする ゲンジボタル が生息・繁殖している。河岸に繁茂する アラカシ や メダケ 等の河畔林は カワセミ 等鳥類の止まり木や、 ゲンジボタル の生息場となっている。	植物	アラカシ	河川水辺の国勢調査H6,H12,H20,H30
				植物	メダケ	河川水辺の国勢調査H6,H12,H18,H23,H28,H30,R3
				鳥類	カワセミ	河川水辺の国勢調査H4,H9,H14,H15,H25,R5
	鳥類			マナヅル(環VU、鹿VU)	河川水辺の国勢調査H14,R5	
	魚類			アユ	河川水辺の国勢調査H5,H10,H17,H21,H26,R6	
	魚類			ニゴイ(鹿DD)	河川水辺の国勢調査H10,H21	
	底生動物			カワニナ	河川水辺の国勢調査H5,H10,H15,H22,R2	
	陸上昆虫類			ゲンジボタル	河川水辺の国勢調査H6,H11,H28	
	下流部 (感潮区間)			感潮区間である下流部は、緩やかな流れの開放水面が広がり、瀬や淵はほとんどない。河床材料は主に砂であり、感潮区間の上端付近では礫が多く、19.0k付近の左岸には、絶滅危惧種の ヤマトシマドジョウ 等の魚類が生息・繁殖する大きなワンドが形成されている。潮汐の影響により2.0k付近の左右岸には、干潮時に砂質の干潟が出現し、 トビハゼ 等の魚類や ケフサイソガニ 等の底生動物が生息・繁殖している。河口付近の塩沼地には ハマボウ が生育し、山地には スダジイ 、 アラカシ 等の樹林が繁茂し、 ミサゴ 等が生息している。	植物	スダジイ
		植物	アラカシ		河川水辺の国勢調査H6,H12,H20,H30	
		植物	ハマボウ(宮NT-g)		河川水辺の国勢調査H12,H20,H30,R3	
		鳥類	ミサゴ(環NT、鹿NT)		河川水辺の国勢調査H4,H9,H14,H15,H25,R5	
魚類		トビハゼ(環NT、鹿VU)	河川水辺の国勢調査H17,H21,H26,R1,R6			
魚類		ヤマトシマドジョウ(環VU、鹿NT、宮EN-r)	河川水辺の国勢調査H17,H26,R1,R6			
底生動物		ケフサイソガニ	河川水辺の国勢調査H5,H10,H15,H22,H27,R2			

※: 種名の後の括弧書きは、重要種としての指定状況を示す。

文: 文化財保護法(1950、法律214)(国天: 国指定天然記念物、県天: 都道府県指定天然記念物、市町村天: 市町村指定天然記念物)

種: 絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(保存)

環: 環境省レッドリスト(2020)(環EX: 絶滅、環EW: 野生絶滅、環CR+EN: 絶滅危惧I類、環CR: 絶滅危惧II類、環EN: 絶滅危惧IB類、環VU: 絶滅危惧II類、環NT: 準絶滅危惧、環DD: 情報不足、環LP: 地域個体群)

鹿: 改訂・鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動物-鹿児島県レッドデータブック2016-(鹿EX: 絶滅、鹿EW: 野生絶滅、鹿CR+EN: 絶滅危惧I類、鹿CR: 絶滅危惧II類、鹿EN: 絶滅危惧IB類、鹿VU: 絶滅危惧II類、鹿NT: 準絶滅危惧、鹿DD: 情報不足)

宮: 三訂・宮崎県版レッドデータブック(2020)(宮EX-d: 絶滅、宮CR-r, CR-g, CR-d: 絶滅危惧IA類、宮EN-r, EN-g: 絶滅危惧IB類、宮VU-r, VU-g: 絶滅危惧II類、宮NT-r, NT-g: 準絶滅危惧、宮DD-1, DD-2: 情報不足、宮OT-1, OT-2: その他保護上重要な種)

参考【上流部(源流から鶴田ダム)】重要種一覧

表 重要種【上流部(源流から鶴田ダム)】

赤字:本文掲載種

分類	確認種数	種名
魚類	8種	ニホンウナギ, ニゴイ, ドジョウ, ヤマトシマドジョウ, アリアケギバチ, ナマズ, ミナミメダカ , オオヨシノボリ
底生動物	14種	モノアラガイ, ヒラマキミズマイマイ, カワコザラガイ, マシジミ, ミドリビル, イボビル, ミナミヌマエビ, サワガニ, クロサナエ, オナガサナエ, アオサナエ, キイロヤマトンボ, クチキトビケラ, コガタノゲンゴロウ
植物	156種	ヒカゲノカズラ, クラマゴケ, フユノハナワラビ, ヤマイタチシダ, ヒメノキシノブ, スギ, ヒノキ, イヌガヤ, イヌコリヤナギ, タチヤナギ, イチイガシ, ケヤキ, ナガバヤブマオ, ウワバミソウ, カテンソウ, トウカテンソウ, ミズ, アオミズ, イラクサ, サクラタデ, ナガバノウナギツカミ, ホソバノウナギツカミ, カワラナデシコ, アオハコベ, オカヒジキ, コブシ, タガラシ, メギ, コウモリカズラ, ウマノスズクサ, ミズオトギリ, ジャニンジン, ミズタガラシ, コゴメマンネングサ, マルバマンネングサ, ヤマアジサイ, タコノアシ, オヘビイチゴ, ニオイイバラ, ヤマイバラ, ビロードイチゴ, コジキイチゴ, ナガボノワレモコウ, ジャケツイバラ, タヌキマメ, マルバヤハズソウ, ハネミヌエンジュ, トキリマメ, シバナム, ツルフジバカマ, カワゴケソウ, ヤマウルシ, アオカズラ, ツリフネソウ, ハマボウ, ボンテンカ, ミゾハコベ, ゴキヅル, ヒメミソハギ, ミソハギ, ミズマツバ, ヒメノボタン, キダチキンバイ, ミズユキノシタ, ホザキノフサモ, フサモ, ウド, シヤク, ハマボウフウ, ウスギモクセイ, リンドウ, コカモメヅル, ヨツバムグラ, ヒロハコンロンカ, ネナシカズラ, グンバイヒルガオ, オオルリソウ, マルバチシャノキ, ミズタビラコ, ミズハコベ, メハジキ, ヒメシロネ, ウツボグサ, タツナミソウ, ツルニガクサ, ゴマクサ, オオアブノメ, カワヂシャ, スズムシバナ, カワラヨモギ, イナカギク, タニガワコンギク, センダングサ, アツバニガナ, ホソバニガナ, ハマニガナ, カワラニガナ, メナモミ, オナモミ, ウリカワ, クロモ, セキシウモ, エビモ, ヒルムシロ, ササバモ, イトクズモ, ホッスモ, ヤマラッキョウ, アキノワスレグサ, ジャノヒゲ, タチシオデ, ヒメコウガイゼキショウ, アオコウガイゼキショウ, ホソイ, ハリコウガイゼキショウ, ホシクサ, ヤマカモジグサ, ノガリヤス, ヤマアワ, コメススキ, ムツオレグサ, ドジョウツナギ, ウシノシツペイ, カモノハシ, エゾノサヤヌカグサ, サヤヌカグサ, アイアシ, クサヨシ, オオイチゴツナギ, イヌアワ, ナガミノオニシバ, ヤマコンニャク, マイヅルテンナンショウ, ヒメミクリ, ガマ, コガマ, イトハナビテンツキ, イトテンツキ, アワボスゲ, オニスゲ, アゼナルコ, ヤマアゼスゲ, ゴウソ, アゼスゲ, シチトウイ, ウシクグ, ヒメガヤツリ, セイタカハリイ, クログワイ, コアゼテンツキ, ヒメヒラテンツキ, ノテンツキ, ビロードテンツキ, イガクサ, マツカサススキ, ツクシアブラガヤ
鳥類	15種	トモエガモ, ヨシゴイ, ゴイサギ, ササゴイ, チュウサギ, ヒクイナ, バン, イカルチドリ, コチドリ, ミサゴ, ハイイロチュウヒ, ハイタカ, ハヤブサ, コシアカツバメ, ホオアカ
両生類・爬虫類・哺乳類	9種	ニホンヒキガエル, トノサマガエル, ニホンイシガメ, ニホンスッポン, シロマダラ, カヤネズミ, キツネ, ニホンイタチ, アナグマ
陸上昆虫類	86種	キムラグモ(広義), キノボリトタテグモ, ホウシグモ, コフキヒメイトトンボ, ベニイトトンボ, セスジイトトンボ, オオイトトンボ, アオハダトンボ, サラサヤンマ, オナガサナエ, アオサナエ, オオハラビロトンボ, ハラボソトンボ, キトンボ, アキアカネ, マイコアカネ, ヒメアカネ, ウスバカマキリ, ハマスズ, カワラバッタ, コバネイナゴ, ハウチワウンカ, ハルゼミ, シロヘリツチカメムシ, ベニツチカメムシ, オオアメンボ, オヨギカタビロアメンボ, タガメ, ギンボシツツビケラ, オオミノガ, ヤホシホソマダラ, ダイミョウセセリ, ホソバセセリ, ギンイチモンジセセリ, ミヤマチャバネセセリ, カラスシジミ, ゴイシシジミ, コムラサキ, サカハチチョウ, ミドリヒョウモン, メスグロヒョウモン, ヒオドシチョウ, ウラナミジャノメ本土亜種, ミカドアゲハ本土亜種, オナガアゲハ, ツマグロキチョウ, カワゴケミズメイガ, フチグロトゲエダシヤク, ルリモンホソバ, カギモンハナオイアツバ, ホソバミツモンケンモン, シマクサアブ, シロスジナガハナアブ, ベッコウハナアブ, セアカオサムシ, アオヘリアオゴミムシ, クビナガキベリアオゴミムシ, タナカツヤハネゴミムシ, シロヘリハンミョウ, コニワハンミョウ, エリザハンミョウ, コハンミョウ, セスジゲンゴロウ, ホソセスジゲンゴロウ, コガタノゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ, ウスイロシマゲンゴロウ, マルケシゲンゴロウ, シャープツツゲンゴロウ, キベリマメゲンゴロウ, コオナガミズスマシ, クビボソコガシラミズムシ, スジヒラタガムシ, ガムシ, シジミガムシ, ヤマトモンシデムシ, ムネアカセンチコガネ, クロカナブン, ヒメボタル, ハラグロオオテントウ, サムライアリ, キボシトックリバチ, ヤマトアシナガバチ, アケボノクモバチ, ヤマトスナハキバチ本土亜種, ナミルリモンハナバチ
<重要種の出典> 【全項目】:「河川水辺の国勢調査(川内川)」(令和6年度まで)		

参考【上流部(鶴田ダム上流)】重要種一覧

表 重要種【上流部(鶴田ダム上流)】

赤字:本文掲載種

分類	確認種数	種名
魚類	4種	ニホンウナギ, ニゴイ, ドジョウ, オオヨシノボリ
底生動物	19種	マルタニシ, チリメンカワニナ, モノアラガイ, ヒラマキミズマイマイ, カワコザラガイ, マシジミ, ミドリビル, イボビル, ミナミヌマエビ, クロサナエ, オナガサナエ, アオサナエ, タベサナエ, キイロヤマトンボ, アキアカネ, タイコウチ, クロゲンゴロウ, コガタノゲンゴロウ, ヨコミゾドロムシ
植物	137種	ヒカゲノカズラ, フユノハナワラビ, マツザカシダ, ヤマイタチシダ, ミドリヒメワラビ, セイタカシケシダ, ヒメノキシノブ, イヌガヤ, オニグルミ, イヌコリヤナギ, タチヤナギ, イチイガシ, アキニレ, ケヤキ, ナガバヤブマオ, カテンソウ, トウカテンソウ, ミズ, アオミズ, イラクサ, ナガバノヤノネグサ, サクラタデ, ナガバノウナギツカミ, ハナタデ, ナンバンハコベ, カワラナデシコ, オカヒジキ, コブシ, メギ, コウモリカズラ, ウマノスズクサ, ジャニンジン, ミズタガラシ, コゴメマンネングサ, マルバマンネングサ, ヤマアジサイ, タコノアシ, オヘビイチゴ, ニオイバラ, ヤマイバラ, コジキイチゴ, ナガボノワレモコウ, ジャケツイバラ, タヌキマメ, マルバヤハズソウ, ハネミイヌエンジュ, トキリマメ, シバナム, クララ, フジ, カワゴケソウ , ヤマウルシ, アオカズラ, ツリフネソウ, ゴキヅル, ヒメソノハギ, ミソハギ, ミズマツバ, ヒメノボタン, キダチキンバイ, フサモ, ウド, ヒメノダケ, ウスギモクセイ, フナバラソウ, ガガイモ, コカモメヅル, キクムグラ, ヨツバムグラ, ヒロハコンロンカ, ネナシカズラ, オオルリソウ, マルバチシャノキ, ミズタバコ, アワゴケ, ミズハコベ, ヒメキランソウ, ミズトラノオ, ヒメシロネ, ウツボグサ, タツナミソウ, ツルニガクサ, ゴマクサ, オオアブノメ, スズメノハコベ, カワヂシャ, トラノオスズカケ, スズムシバナ, ヒメヨモギ, タニガワコンギク, センダングサ, アツバニガナ, ホソバニガナ, カワラニガナ, メナモミ, オナモミ, ウリカワ, クロモ, セキシヨウモ, ササバモ, イトクズモ, ヤマラツキョウ, ジャノヒゲ, オモト, タチシオデ, ヒメコウガイゼキショウ, アオコウガイゼキショウ, ホソイ, ヤマカモジグサ, ノガリヤス, ヤマアワ, コメススキ, ムツオレグサ, ドジョウツナギ, ウシノシッペイ, カモノハシ, エゾノサヤヌカグサ, サヤヌカグサ, クサヨシ, ツクシズメノカタビラ, オオイチゴツナギ, イヌアワ, ナガミノオニシバ, ヤマコンニャク, マイヅルテンナンショウ, ヒメミクリ, コガマ, イトハナビテンツキ, イトテンツキ, アワボスゲ, アゼナルコ, ヤマアゼスゲ, ナキリスゲ, ゴウソ, アゼスゲ, ウシクグ, ツクシアブラガヤ
鳥類	19種	ヒシクイ, ツクシガモ, オシドリ, トモエガモ, チュウサギ, ヘラサギ, マナヅル, ヒクイナ, ケリ, イカルチドリ , シロチドリ, ハマシギ, タマシギ, ミサゴ, ハイタカ, オオタカ, サシバ, クマタカ, ハヤブサ
両生類・爬虫類・哺乳類	9種	アカハライモリ, ニホンヒキガエル, トノサマガエル, ニホンイシガメ, ニホンスッポン, スミスネズミ, カヤネズミ, キツネ, アナグマ
陸上昆虫類	54種	キムラグモ, ベニイトトンボ, セスジイトトンボ, オオイトトンボ, アオハダトンボ, キイロサナエ, アキアカネ, ウスバカマキリ, ハウチワウンカ, オオアシナガサシガメ, シロヘリツチカメムシ, オオアメンボ, オヨギカタビロアメンボ, タガメ, ギンボシツツトビケラ, アシナガモモトスカシバ, ヤホシホソマダラ, ホソバセセリ, ギンイチモンジセセリ, カラスジミ, サカハチチョウ, ミドリヒョウモン, メスグロヒョウモン, ヒオドシチョウ, ウラナミジャノメ本土亜種, オナガアゲハ, ツマグロキチョウ, カワゴケミズメイガ , カギモンハナオイアツバ, ホソバミツモンケンモン, キシタアツバ, セアカオサムシ, アオヘリアオゴミムシ, クビナガキベリアオゴミムシ, タナカツヤハネゴミムシ, シロヘリハンミョウ, コガタノゲンゴロウ , ウスイロシマゲンゴロウ, シャープツブゲンゴロウ, キベリマメゲンゴロウ, コオナガミズスマシ, クビボソコガシラミズムシ, スジヒラタガムシ, ガムシ, シジミガムシ, ヤマトモンシデムシ, トラフカミキリ, サムライアリ, キボシトックリバチ, ヤマトアシナガバチ, アケボノクモバチ, アオスジクモバチ, ヤマトスナハキバチ本土亜種, ナミルリモンハナバチ
<重要種の出典> 【全項目】:「河川水辺の国勢調査(川内川)」(令和6年度まで)		

参考【中流部(鶴田ダムから感潮区間)】重要種一覧

表 重要種【中流部(鶴田ダムから感潮区間)】

赤字:本文掲載種

分類	確認種数	種名
魚類	9種	ニホンウナギ, ニゴイ , ヤマトシマドジョウ, アリアケギバチ, ナマズ, ミナミメダカ, カワアナゴ, オオヨシノボリ, ウキゴリ
底生動物	19種	チリメンカワニナ, ウスイロオカチグサガイ, モノアラガイ, カワコザラガイ, ニセマツカサガイ, イシガイ, カタハガイ, マシジミ, ミドリビル, イボビル, ミナミヌマエビ, ヒラテテナガエビ, テナガエビ, アオハダトンボ, オナガサナエ, アオサナエ, キイロヤマトンボ, コガタノゲンゴロウ, ヨコミゾドロムシ
植物	159種	ヒカゲノカズラ, クラマゴケ, フユノハナワラビ, マツザカシダ, ヤマイタチシダ, ヒメカナワラビ, ヒメノキシノブ, スギ, ヒノキ, イヌガヤ, イヌコリヤナギ, タチヤナギ, イチイガシ, ケヤキ, ナガバヤブマオ, ウワバミソウ, カテンソウ, トウカテンソウ, ミズ, アオミズ, イラクサ, サクラタデ, ナガバノウナギツカミ, ハナタデ, ホソバノウナギツカミ, カワラナデシコ, アオハコベ, オカヒジキ, コブシ, タガラシ, メギ, コウモリカズラ, ウマノスズクサ, ミズオトギリ, ジャニンジン, ミズタガラシ, コゴメナンネングサ, マルバマンネングサ, ヤマアジサイ, タコノアシ, オヘビイチゴ, ニオイバラ, ヤマイバラ, ピロードイチゴ, コジキイチゴ, ナガボノワレモコウ, ジャケツイバラ, タヌキマメ, マルバヤハズソウ, ハネミイヌエンジュ, シバネム, カワゴケソウ, コクサギ, ヤマウルシ, アオカズラ, ツリフネソウ, ハマボウ, ボンテンカ, ミゾハコベ, ゴキヅル, ホソガタスズメウリ, ヒメミソハギ, ミソハギ, ヒメノボタン, キダチキンバイ, ミズユキノシタ, ホザキノフサモ, フサモ, ウド, ハマボウフウ, ウスギモクセイ, リンドウ, コカモメヅル, ヨツバムグラ, ヒロハコンロンカ, ネナシカズラ, グンバイヒルガオ, オオルリソウ, マルバチシャノキ, ミズタビラコ, ミズハコベ, ヒメキランソウ, メハジキ, ヒメシロネ, コシロネ, ウツボグサ, タツナミソウ, ニガクサ, ツルニガクサ, ゴマクサ, オオアブノメ, カワヂシャ, トラノオスズカケ, スズムシバナ, カワラヨモギ, イナカギク, タニガワコンギク, センダングサ, アツバニガナ, ホソバニガナ, ハマニガナ, カワラニガナ, メナモミ, オナモミ, ウリカワ, クロモ, セキショウモ, エビモ, ヒルムシロ, ササバモ, イトクズモ, ホッスモ, ヤマラッキョウ, アキノワスレグサ, ジャムヒゲ, オモト, タチシオデ, ヒメコウガイゼキショウ, アオコウガイゼキショウ, ホソイ, ハリコウガイゼキショウ, ホシクサ, ヤマカモジグサ, ノガリヤス, ヤマアワ, コメススキ, ムツオレグサ, ドジョウツナギ, ウシノシツペイ, カモノハシ, サヤヌカグサ, アイアシ, クサヨシ, オオイチゴツナギ, イヌアワ, ナガミノオニシバ, ヤマコンニャク, マイヅルテンナンショウ, ヒメミクリ, イトハナビテンツキ, イトテンツキ, アワボスゲ, オニスゲ, アゼナルコ, ヤマアゼスゲ, ナキリスゲ, ゴウソ, アゼスゲ, シチトウイ, ウシクグ, ヒメガヤツリ, セイタカハリイ, クログワイ, ヒメヒラテンツキ, ノテンツキ, ピロードテンツキ, イガクサ, マツカサススキ, ツクシアブラガヤ
鳥類	19種	オシドリ, ゴイサギ, ササゴイ, チュウサギ, マナヅル , ヒクイナ, パン, イカルチドリ, コチドリ, シロチドリ, ミサゴ, ハイタカ, サシバ, アオバズク, アカショウビン, ハヤブサ, サンショウクイ, ルリビタキ, ホオアカ
両生類・爬虫類・哺乳類	10種	アカハライモリ, ニホンヒキガエル, トノサマガエル, ニホンイシガメ, ニホンスッポン, モモジロコウモリ, カヤネズミ, キツネ, ニホンイタチ, アナグマ
陸上昆虫類	81種	キムラグモ, コフキヒメイトトンボ, セスジイトトンボ, オオイトトンボ, サラサヤンマ, オナガサナエ, タベサナエ, ヨツボシトンボ, オオハラビロトンボ, キトンボ, アキアカネ, マイコアカネ, ヒメアカネ, ウスバカマキリ, ハマスズ, カワラバッタ, コバネイナゴ, ハウチワウンカ, ハルゼミ, シロヘリツチカメムシ, ベニツチカメムシ, オオアメンボ, オヨギカタビロアメンボ, タガメ, ギンボシツツビケラ, オオミノガ, ヤホシホソマダラ, ダイミョウセセリ, ホソバセセリ, ギンイチモンジセセリ, ミヤマチャバネセセリ, カラスシジミ, トラフシジミ, ゴイシシジミ, コムラサキ, サカハチチョウ, ミドリヒョウモン, メスグロヒョウモン, ヒオドシチョウ, ウラナミジャノメ本土亜種, オナガアゲハ, ツマグロキチョウ, カワゴケミズメイガ, ルリモンホソバ, カギモンハナオイアツバ, ホソバミツモンケンモン, ギンモンアカヨトウ, カクモンハラブトハナアブ, シロスジナガハナアブ, セアカオサムシ, アオヘリアオゴミムシ, クビナガキベリアオゴミムシ, タナカツヤハネゴミムシ, シロヘリハンミョウ, エリザハンミョウ, セスジゲンゴロウ, ホソセスジゲンゴロウ, コガタノゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ, ウスイロシマゲンゴロウ, コマルケシゲンゴロウ, マルケシゲンゴロウ, シャープツツゲンゴロウ, ナガマルチビゲンゴロウ, キベリマメゲンゴロウ, コオナガミズマシ, クビボソコガシラミズムシ, コガシラミズムシ, スジヒラタガムシ, ガムシ, シジミガムシ, ヤマトモンシテムシ, ムネアカセンチコガネ, クロカナブン, オオテントウ, サムライアリ, キボシツクリバチ, ヤマトアシナガバチ, アケボノクモバチ, ヤマトスナハキバチ本土亜種, ナミルリモンハナバチ
<重要種の出典> 【全項目】:「河川水辺の国勢調査(川内川)」(令和6年度まで)		

参考【下流部(感潮区間)】重要種一覧

表 重要種【下流部(感潮区間)】

赤字:本文掲載種

分類	確認種数	種名
魚類	17種	ニホンウナギ, ニゴイ, ヤマトシマドジョウ, アリアケギバチ, ナマズ, ミナミメダカ, クルメサヨリ, トサカギンポ, カワアナゴ, イドミズハゼ, ヒモハゼ, シロウオ, コガネチワラスボ, トビハゼ, オオヨシノボリ, スミウキゴリ, ウキゴリ
底生動物	38種	ミヤコドリガイ, チリメンカワニナ, マルウズラタマキビガイ, サザナミツボ, カワコザラガイ, ガンツキ, ウネナシトマヤガイ, マシジミ, オキシジミ, ハマグリ, アサリ, ナミノコガイ, ユウシオガイ, オチバガイ, ムラサキガイ, クチバガイ, ミナミヌマエビ, ヒラテテナガエビ, テナガエビ, アナジャコ, マメコブシガニ, マキトラノオガニ, サワガニ, クロベンケイガニ, アカテガニ, フタバカクガニ, カクベンケイガニ, ヒメアカイソガニ, トゲアシヒライソガニモドキ, ヒメヒライソモドキ, タイワンヒライソモドキ, コメツキガニ, スナガニ, フタバピンノ, キイロサナエ, オナガサナエ, オヨギカタビロアメンボ, コガタノゲンゴロウ
植物	160種	ヒカゲノカズラ, クラマゴケ, フユノハナワラビ, ヤマイタチシダ, ヒメカナワラビ, ヒメノキシノブ, スギ, ヒノキ, イヌガヤ, オニグルミ, イヌコリヤナギ, タチヤナギ, イチイガシ, ケヤキ, ナガバヤブマオ, ウワバミソウ, カテンソウ, トウカテンソウ, ミズ, アオミズ, イラクサ, サクラタデ, ナガバノウナギツカミ, ホソバノウナギツカミ, ハマナデシコ, カワラナデシコ, アオハコベ, オカヒジキ, コブシ, タガラシ, メギ, コウモリカズラ, ウマノスズクサ, ミズオトギリ, ジャニンジン, ミズタガラシ, コゴメマンネングサ, マルバマンネングサ, ヤマアジサイ, タコノアシ, オヘビイチゴ, ニオイバラ, ヤマイバラ, ビロードイチゴ, バライチゴ, コジキイチゴ, ナガボノワレモコウ, ジャケツイバラ, タヌキマメ, マルバヤハズソウ, ハネミイヌエンジュ, シバナム, カワゴケソウ, コクサギ, ヤマウルシ, アオカズラ, ツリフネソウ, アマヅル, ハマボウ, ボンテンカ, ミゾハコベ, ゴキヅル, ヒメミソハギ, ミソハギ, ヒメノボタン, キダチキンバイ, ミズユキノシタ, ホザキノフサモ, フサモ, ウド, ハマボウフウ, ウスギモクセイ, リンドウ, コカモメヅル, ヨツバムグラ, ヒロハコンロンカ, ネナシカズラ, ゲンバイヒルガオ, オオルリソウ, マルバチシャノキ, ミズタビラコ, ミズハコベ, メハジキ, ヒメシロネ, ウツボグサ, ミゾコウジュ, タツナミソウ, ニガクサ, ツルニガクサ, ゴマクサ, オオアブノメ, カワヂシャ, スズムシバナ, カワラヨモギ, ヒメヨモギ, イナカギク, タニガワコンギク, センダングサ, アツバニガナ, ホソバニガナ, ハマニガナ, カワラニガナ, メナモミ, オナモミ, ウリカワ, クロモ, セキシウモ, エビモ, ヒルムシロ, ササバモ, イトクズモ, ホッスモ, ヤマラッキョウ, アキノワスレグサ, ジャノヒゲ, タチシオデ, シオデ, ヒメコウガイゼキショウ, アオコウガイゼキショウ, ホソイ, ハリコウガイゼキショウ, ホシクサ, ヤマカモジグサ, ノガリヤス, ヤマアワ, コメススキ, ムツオレグサ, ドジョウツナギ, ウシノシッペイ, カモノハシ, サヤカグサ, アイアシ, クサヨシ, ツクスズメノカタビラ, オオイチゴツナギ, イヌアワ, ナガミノオニシバ, ヤマコンニャク, マイツルテンナンショウ, ヒメミクリ, イトハナビテンツキ, イトテンツキ, アワボスゲ, オニスゲ, アゼナルコ, ヤマアゼスゲ, ナキリスゲ, ゴウソ, アゼスゲ, シチトウイ, ウシクグ, ヒメガヤツリ, セイタカハリイ, クログワイ, ヒメヒラテンツキ, ノテンツキ, ビロードテンツキ, イガクサ, マツカサススキ, ツクシアブラガヤ
鳥類	31種	ウズラ, オシドリ, トモエガモ, ゴイサギ, ササゴイ, チュウサギ, クロサギ, ヘラサギ, クロツラヘラサギ, マナヅル, クイナ, ヒクイナ, バン, イカルチドリ, コチドリ, シロチドリ, セイタカシギ, コシヤクシギ, アカアシシギ, タカブシギ, ハマシギ, ツバメチドリ, ミサゴ, チュウヒ, ハイイロチュウヒ, オオタカ, アカシヨウビン, ハヤブサ, サンショウクイ, コシアカツバメ, ホオアカ
両生類・爬虫類・哺乳類	7種	ニホンヒキガエル, トノサマガエル, ニホンイシガメ, ニホンスッポン, カヤネズミ, ニホンイタチ, アナグマ
陸上昆虫類	82種	キノボリトタテグモ, ホウシグモ, コフキヒメイトトンボ, セスジイトトンボ, オオイトトンボ, サラサヤンマ, オナガサナエ, オオハラビロトンボ, キトンボ, アキアカネ, マイコアカネ, ヒメアカネ, リスアカネ, ウスバカマキリ, ハマスズ, カワラバッタ, コバネイナゴ, ハウチワウンカ, ハルゼミ, アシナガナガカメムシ, シロヘリツチカメムシ, ベニツチカメムシ, オオアメンボ, オヨギカタビロアメンボ, タガメ, ギンボシツツトビケラ, オオミノガ, ヤホシホソマダラ, ダイミョウセセリ, ホソバセセリ, ギンイチモンジセセリ, ミヤマチャバネセセリ, カラスシジミ, ゴイシシジミ, コムラサキ, サカハチチョウ, ミドリヒョウモン, メスグロヒョウモン, ヒオドシチョウ, ウラナミジャノメ本土亜種, オナガアゲハ, ツマグロキチョウ, ツマベニチョウ, カワゴケミズメイガ, ルリモンホソバ, シロホソバ, ヤネホソバ, カギモンハナオイアツバ, ホソバミツモンケンモン, キシタアツバ, シロスジナガハナアブ, サツマキバナガミズギワゴミムシ, セアカオサムシ, アオヘリアオゴミムシ, クビナガキベリアオゴミムシ, タナカツヤハネゴミムシ, ウミホソチビゴミムシ, シロヘリハンミョウ, エリザハンミョウ, コハンミョウ, セスジゲンゴロウ, ホソセスジゲンゴロウ, コガタノゲンゴロウ, コシマゲンゴロウ, ウスイロシマゲンゴロウ, マルケシゲンゴロウ, シャープツブゲンゴロウ, ケベリマメゲンゴロウ, コオナガミズスマシ, クビボソコガシラミズムシ, スジヒラタガムシ, ガムシ, シジミガムシ, ヤマトモンシテムシ, ムネアカセンチコガネ, クロカナブン, サムライアリ, キボシトックリバチ, ヤマトアシナガバチ, アケボノクモバチ, ヤマトスナハキバチ本土亜種, ナミルリモンハナバチ

<重要種の典拠>【全項目】:「河川水辺の国勢調査(川内川)」(令和6年度まで)

流水の正常な機能を維持するために必要な流量の設定

- 動植物の生息地又は生育地の状況や景観、流水の清潔の保持など、8項目の検討により維持流量を設定し、水利流量・流入量を考慮した結果、倉野橋地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量は通年概ね20m³/sとし、変更しない。
- 水利流量(川内川流域)は、農業用かんがい面積約7,400ha、水道用水として約0.321m³/s、発電用水最大約373.2m³/s、工業用水として約1.435m³/s、その他用水約1.907m³/sである。
- 倉野橋地点における過去36年間(昭和61年～令和3年)の平均渇水流量は約24.6m³/s、平均低水流量は約33.7m³/sであり、比較的河川流況は良好である。

正常流量の基準地点

基準地点は、以下の点を勘案し倉野橋地点とした。

- ① 主要な水道用水、工業用水の取水地点(丸山共同取水口)上流に位置し、農業用水の還元量が集まり、発電放流による影響も少ない。
- ② 流況管理に適している。
- ③ 主要な瀬(アユの産卵場)の近傍に位置している。
- ④ 感潮区間及び湛水域でない。

流況

➢ 川内川では近年渇水被害は発生していない。
 ➢ 現況流況で平均低水流量約33.7m³/s、平均渇水流量約24.6m³/s、1/10渇水流量約19.8m³/sとなっている。

項目	単位	豊水流量	平水流量	低水流量	渇水流量
平均	(m ³ /s)	77.36	45.47	33.67	24.58
最大	(m ³ /s)	156.80	63.56	50.50	39.93
最小	(m ³ /s)	47.92	29.44	20.31	12.73
W=1/10	(m ³ /s)	58.57	36.24	28.63	19.79

※統計期間：S61～R3(36年間) w=1/10: S61～R5の第3位/29年
 倉野橋地点流域面積：1,153km²

維持流量の設定

項目	検討内容・決定根拠等
① 動植物の生息地又は生育地の状況及び漁業	代表魚種(アユ、ウグイ、ヨシノボリ類、オイカワ、カワムツ)の生息・産卵に必要な流量を設定。
② 景観	アンケート調査を踏まえ、良好な景観を確保するのに必要な流量を設定。
③ 流水の清潔の保持	環境基準(BOD75%値)の2倍値を満足するために必要な流量を設定。
④ 舟運	過去において船舶の航行に障害は発生していないため必要流量は設定しない。
⑤ 塩害の防止	対策として平成15年に斧淵共同予備取水口が設置されて以降降雪障害は発生していないため、必要流量は設定しない。
⑥ 河口閉塞の防止	河口部の導流堤により、河口部への海流による土砂の供給はないものと判断し、必要流量は設定しない。
⑦ 河川管理施設の保護	河川流量(水位)から影響を受ける施設はないため、必要流量を設定しない。
⑧ 地下水位の維持	過去に地下水の取水障害は発生していないことから必要流量は設定しない。

流水の清潔の保持


I 区間(109.8k～116.6k) 必要流量0.47m³/s
 ・将来時点(H37年次(令和7年次))の流出負荷量(対策後)を用いて基準地点(倉野橋)での水質環境基準のBOD値の2倍を満足するために必要な流量を設定。

① 動植物の生息地又は生育地の状況及び漁業

B区間 18.99～19.10m³/s
 期間2：2/1～4/30(非かんがい期：ウグイ産卵)・期間5：9/1～10/10(かんがい期：アユ産卵期)・期間6 10/11～12/31(非かんがい期：アユ産卵期)
 H区間 2.46～4.21m³/s
 期間1：1/1～1/31(非かんがい期：移動期)・期間3：5/1～6/30(かんがい期：ウグイ、ヨシノボリ産卵期)・期間4：7/1～8/31(かんがい期：ヨシノボリ産卵期)
 ・かんがい期は106.2kのウグイ・ヨシノボリの産卵に必要な水深20cm、非かんがい期のアユ産卵期は24.26kのアユの産卵に必要な流速60m³/sを確保するために必要な流量を設定。

景観 I 区間(109.8k～116.6k) 必要流量0.71m³/s

・アンケート調査により、良好な景観を確保する見かけの水面幅と河川幅の割合から流量を設定。
 フォトモニタージュ飯野橋下流 (W/B=0.5)

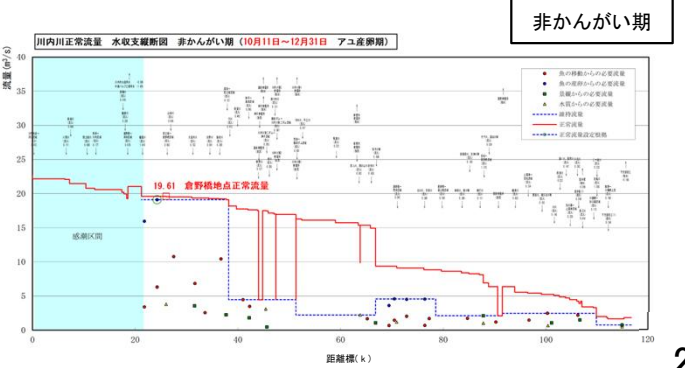
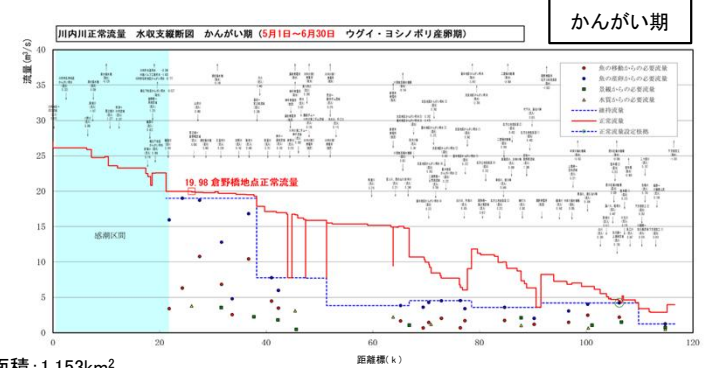


飯野橋下流

正常流量の設定 倉野橋地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量は、魚類の生息地又は生育地等を考慮し、通年概ね20m³/sとする。

項目	単位	かんがい期	非かんがい期	
		5/1～10/10	10/11～4/30	
正常流量	(m ³ /s)	19.98	19.61	
	(m ³ /s/100km ²)	(1.73)	(1.70)	
現況流況	平均渇水流量	(m ³ /s)	28.61	24.42
		(m ³ /s/100km ²)	(2.48)	(2.12)
	W=1/10渇水流量	(m ³ /s)	18.82	19.46
		(m ³ /s/100km ²)	(1.63)	(1.69)

※統計期間：S61～R3(36年間)、W=1/10: S61～R3の第3位/29年、倉野橋地点流域面積：1,153km²



⑥総合的な土砂管理

総合的な土砂管理 山地領域の状況

○ 山地領域では、鹿児島県、宮崎県により、砂防施設の整備が行われており、林野庁、鹿児島県、宮崎県により治山施設・森林整備も実施されている。

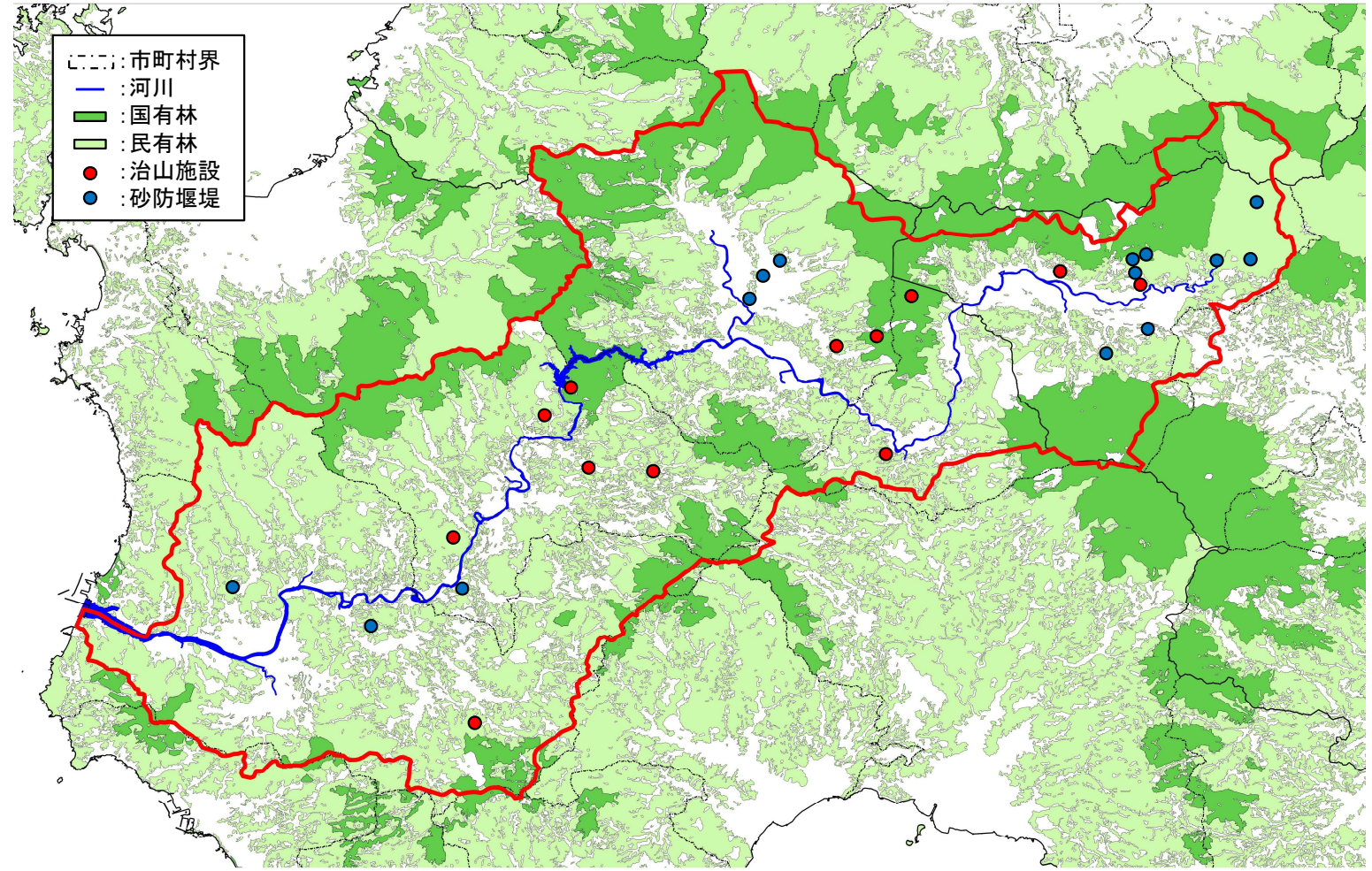
川内川流域の森林整備、治山対策の実施状況

森林整備

人口造林(再造林) (鹿児島県)



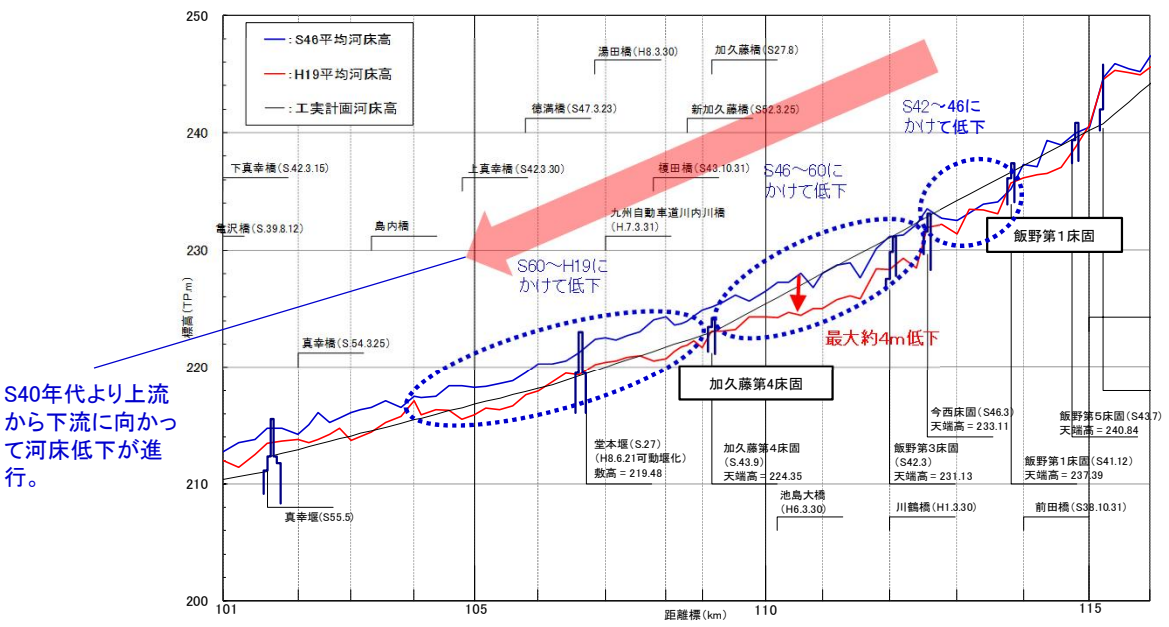
山腹工による土砂流出防止対策 (宮崎県)



総合的な土砂管理 河道領域の状況(101.0k~115.0k)

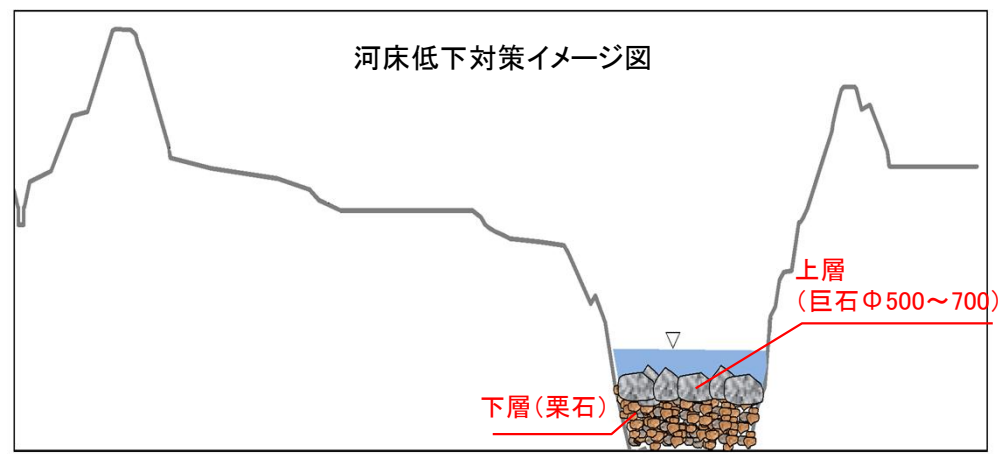
- 昭和30~40年代の大規模河川改修により低水路が固定化したことや、管理河床高(シラス高程度)まで河床掘削したことにより、河床のシラス層が露出し河床低下が進行。河床低下に伴い、護岸の根つぎ等の応急的な対策を実施。
- 近年、河道は概ね安定していたが、平成23年7月の出水により加久藤第4床固が被災したことから、河川管理施設や横断工作物を保全するため段階的に河床低下対策を推進。

平均河床高の経年変化

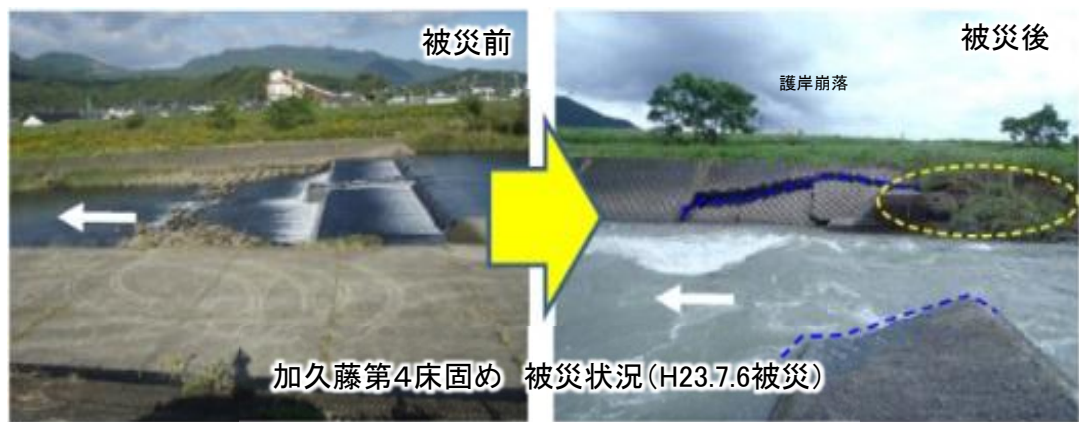


S40年代より上流から下流に向かって河床低下が進行。

河床低下対策の実施

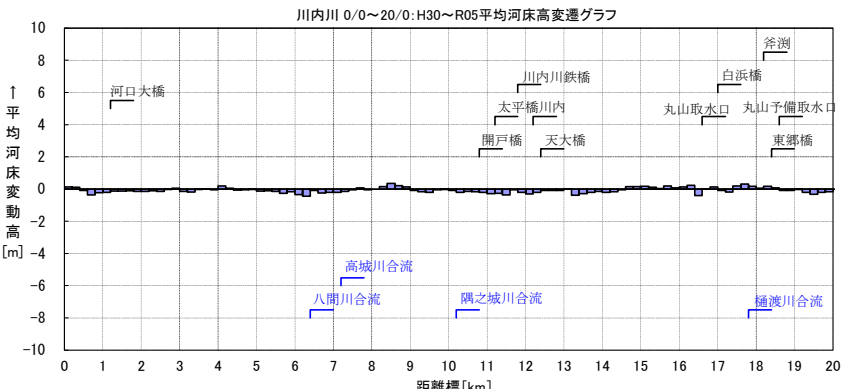
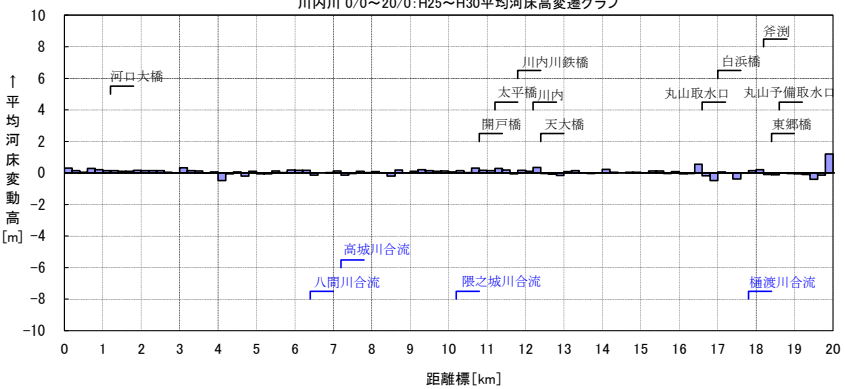
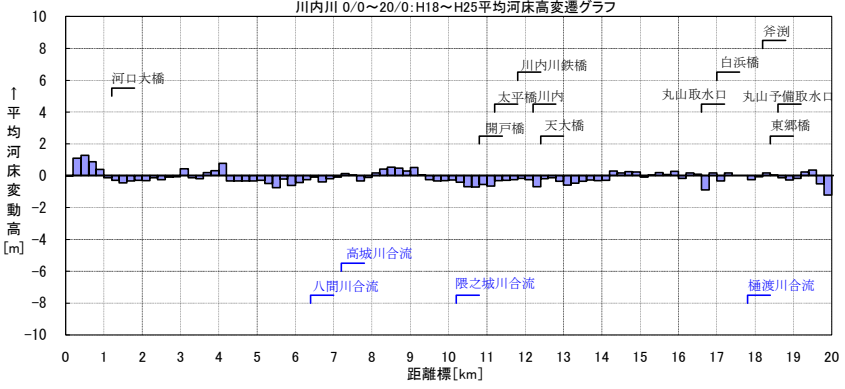
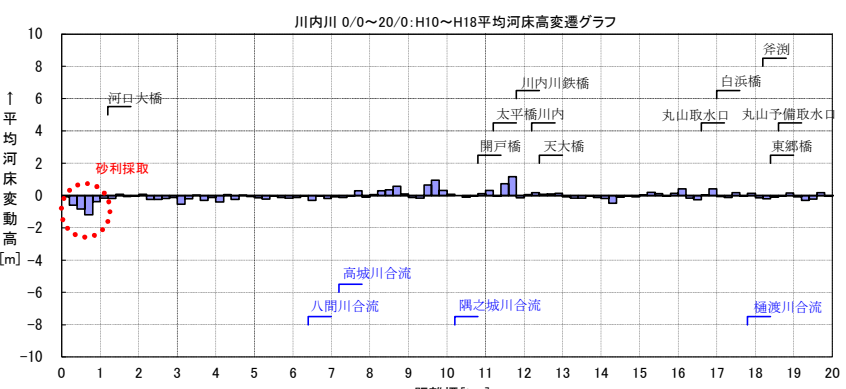
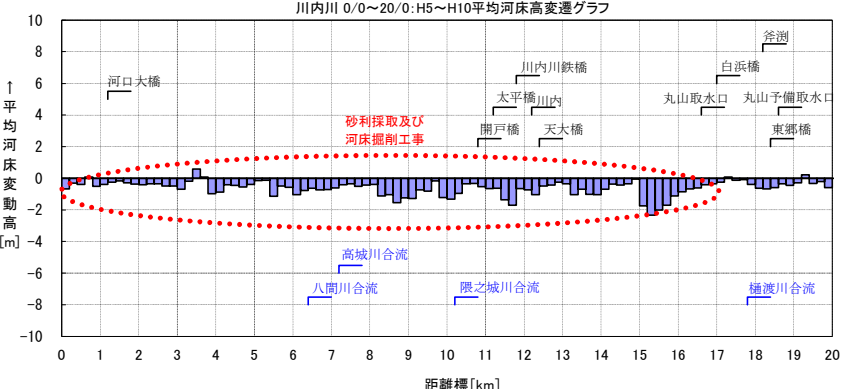
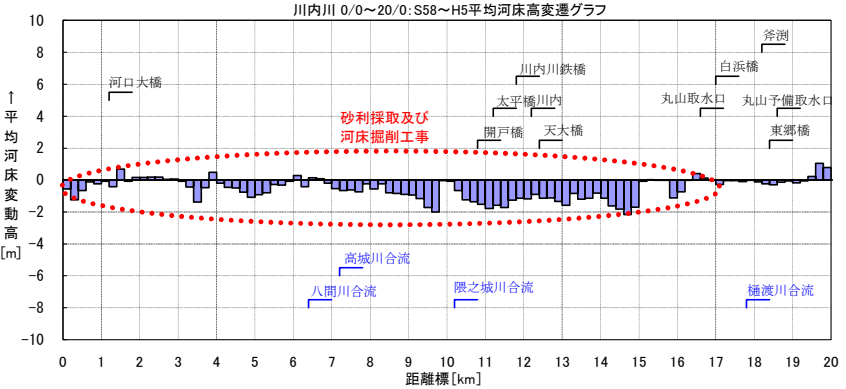


床固工の被災状況

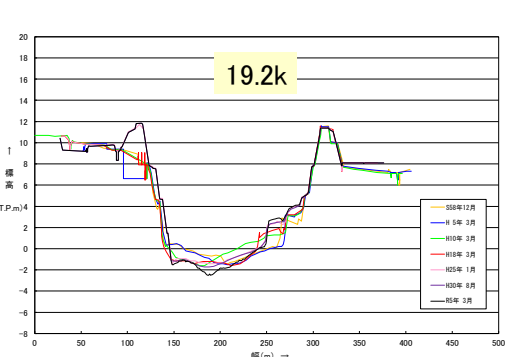
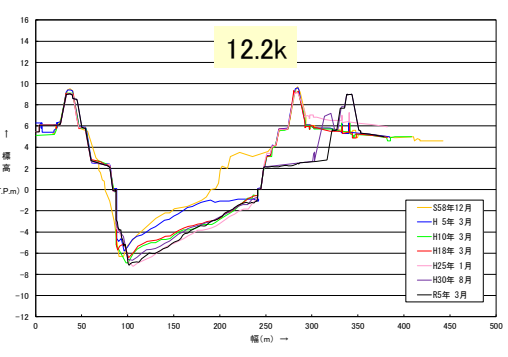
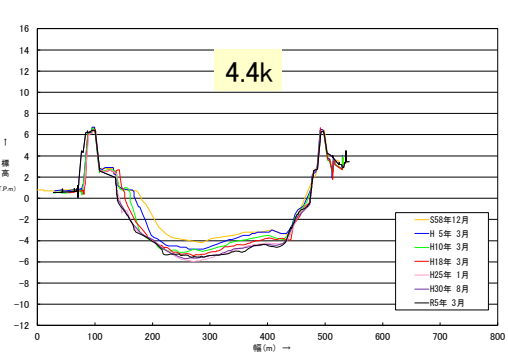


- 平成初期までは下流区間の河床掘削工事及び砂利採取による河積拡大に伴い、平均河床高が低下している箇所が見られる。
- 近年は部分的な洗掘・堆積が見られる程度であり、概ね安定傾向である。

平均河床高の経年変化

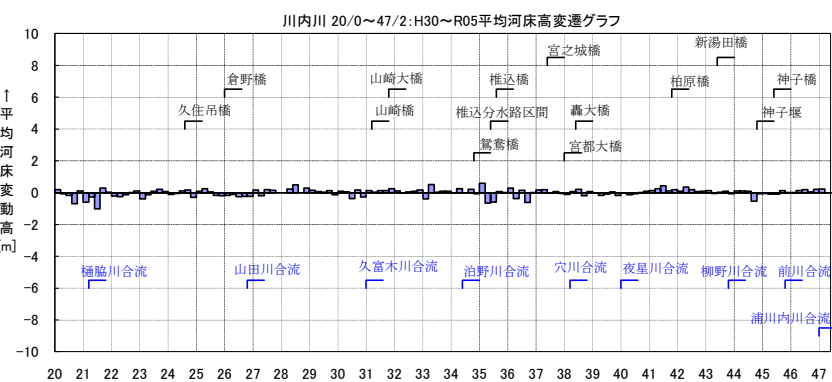
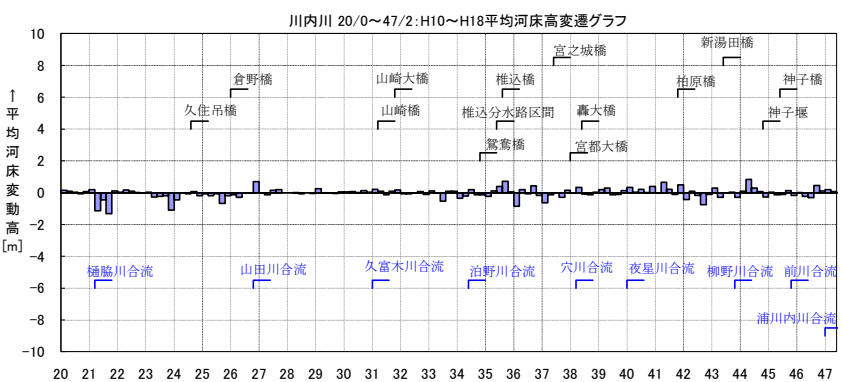
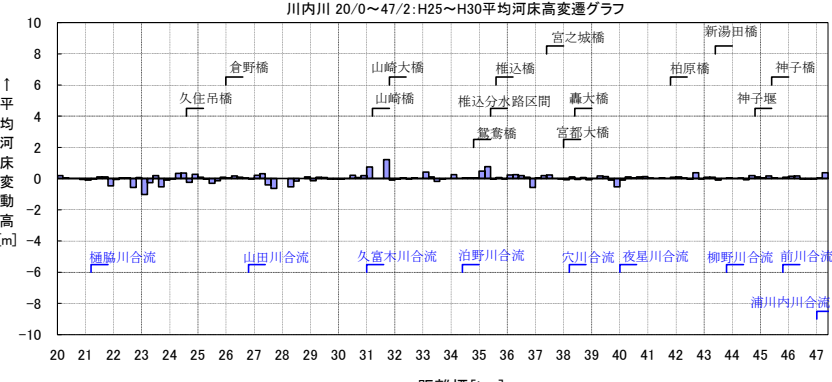
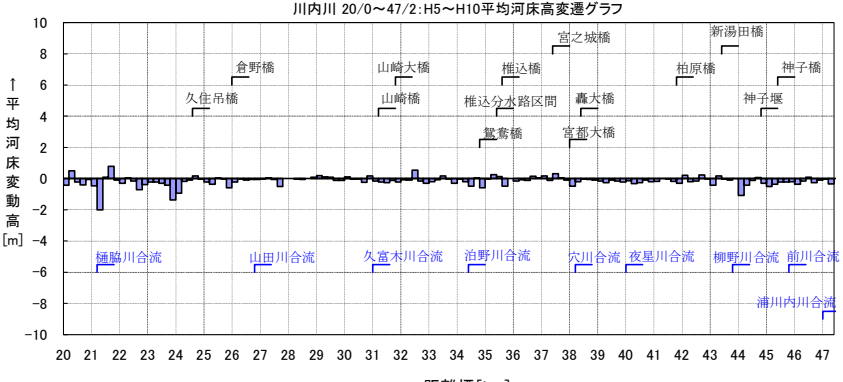
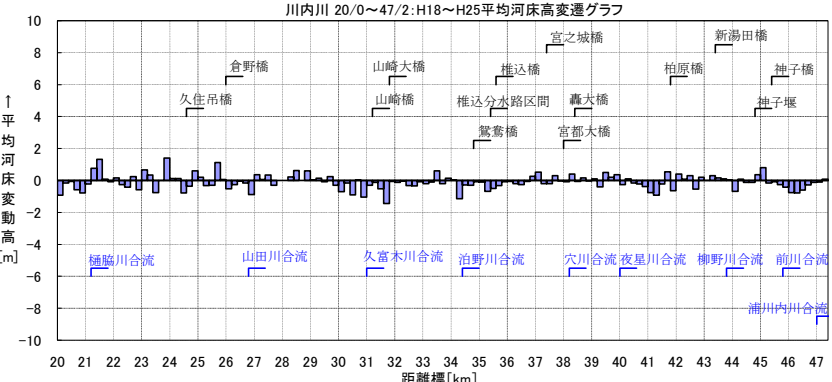
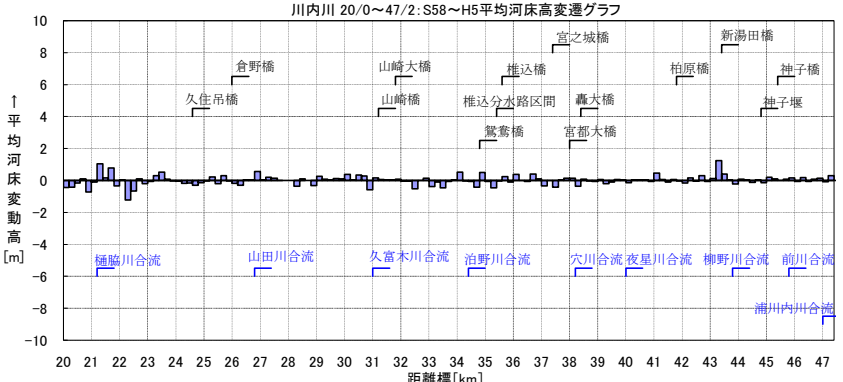


横断形状の経年変化

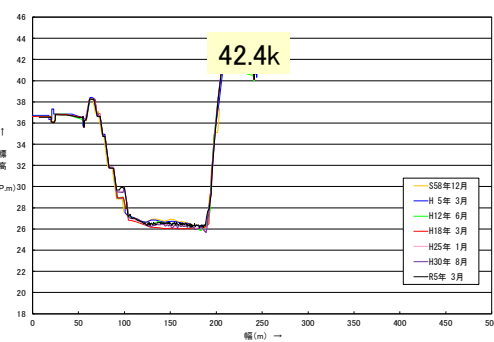
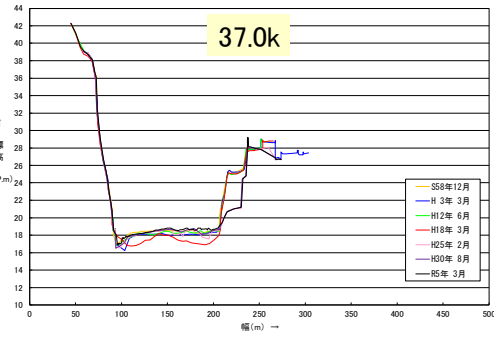
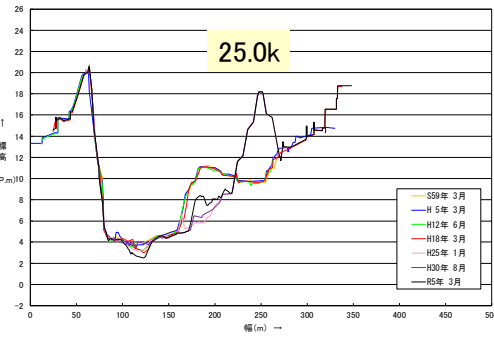


○ 部分的な洗掘・堆積が見られる程度であり、概ね安定傾向である。

平均河床高の経年変化

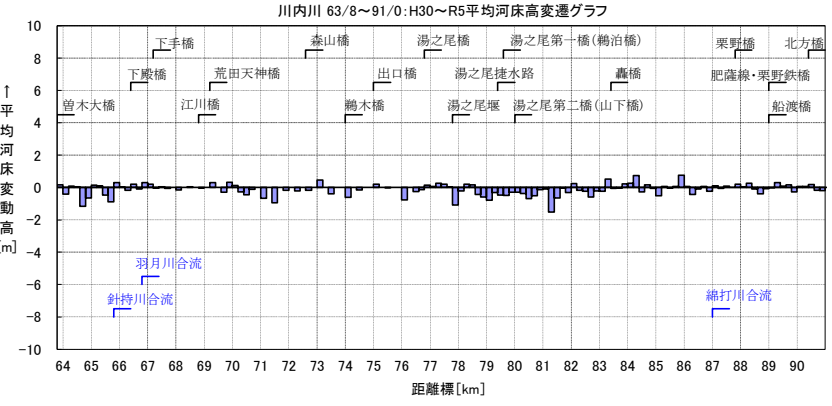
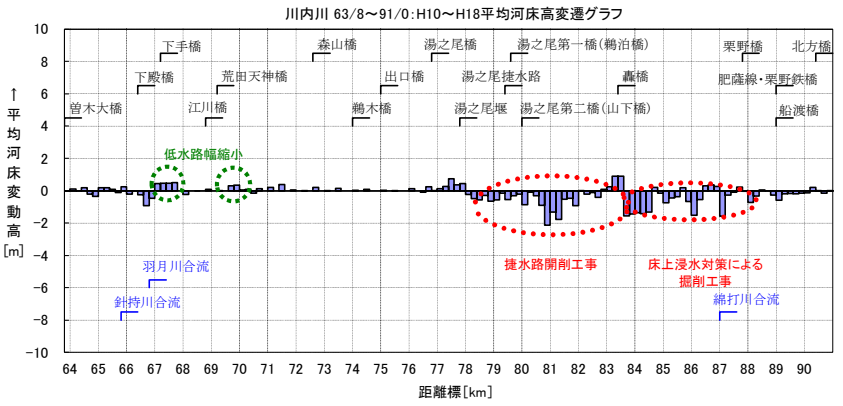
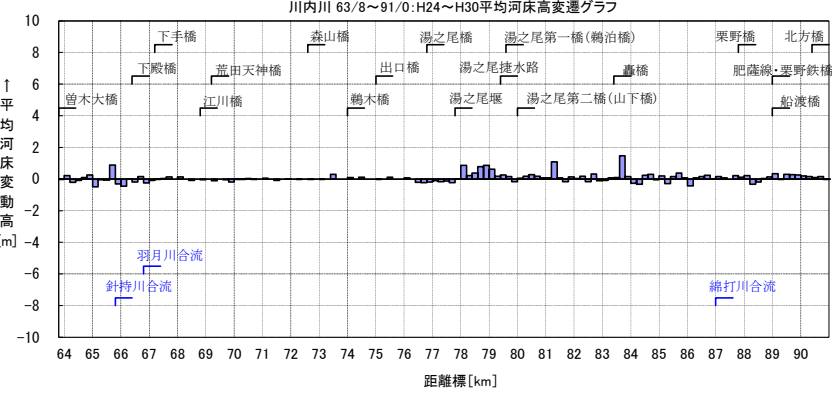
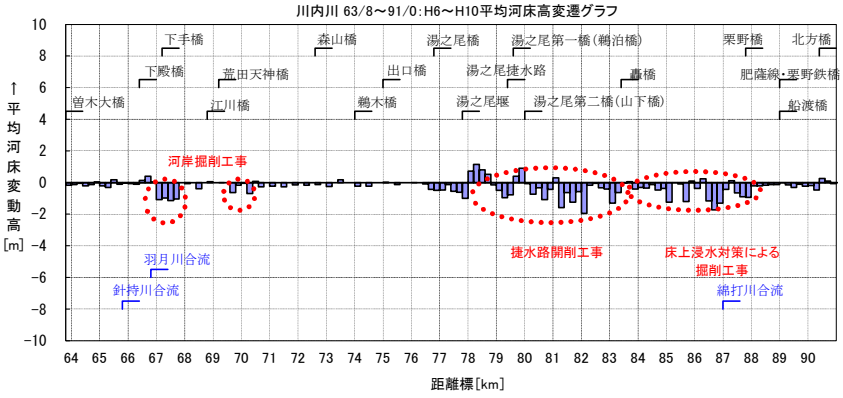
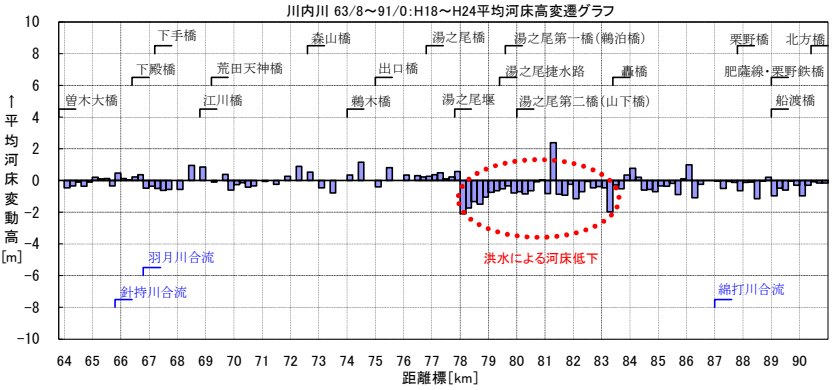
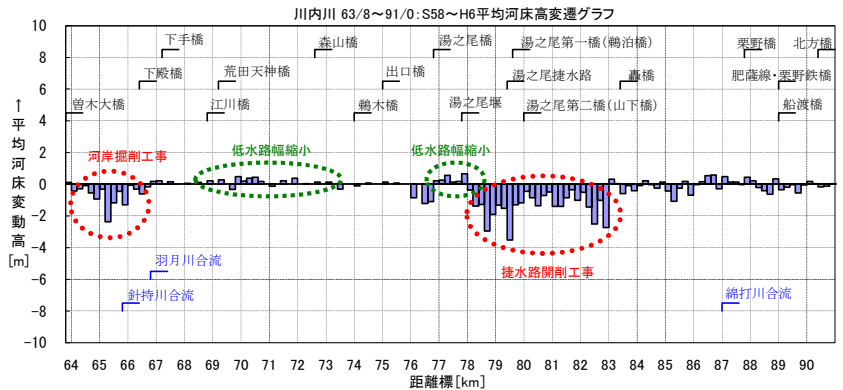


横断形状の経年変化

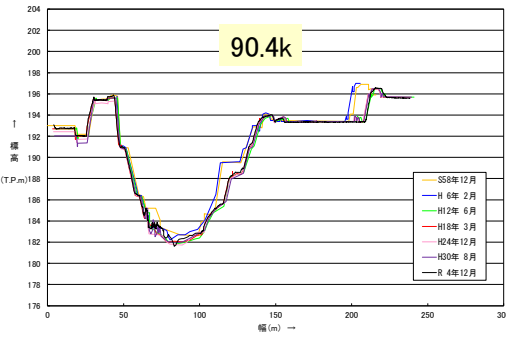
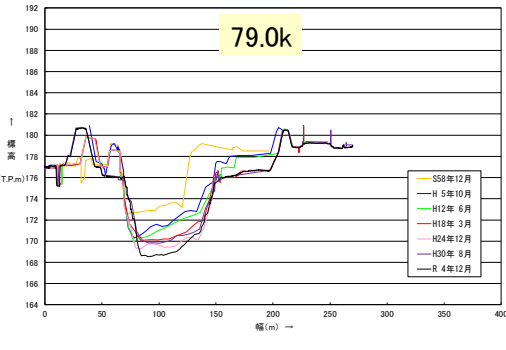
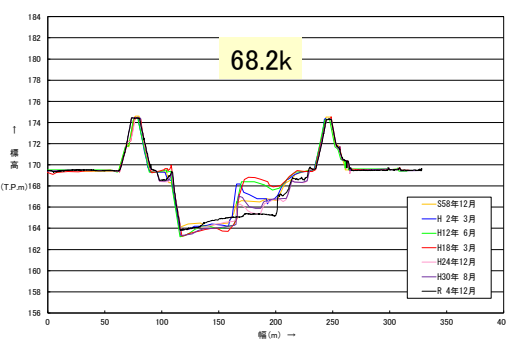


- 平成中期までは河床掘削工事、捷水路開削工事による河積拡大に伴い、平均河床高が低下している箇所が見られる。
- 近年では出水の影響により湯ノ尾堰上流で局所的な平均河床高の低下が見られるが、その他の区間では、部分的な洗掘・堆積が見られる程度であり、概ね安定傾向である。

平均河床高の経年変化

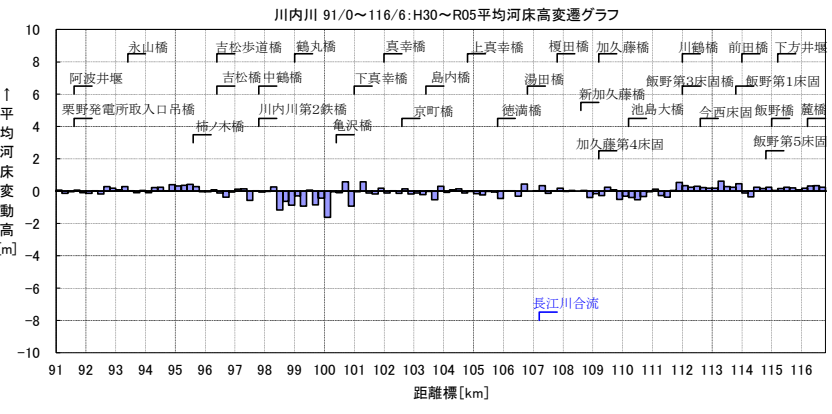
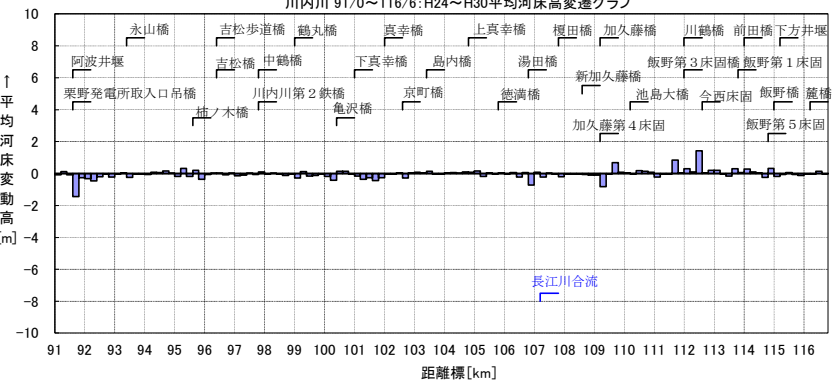
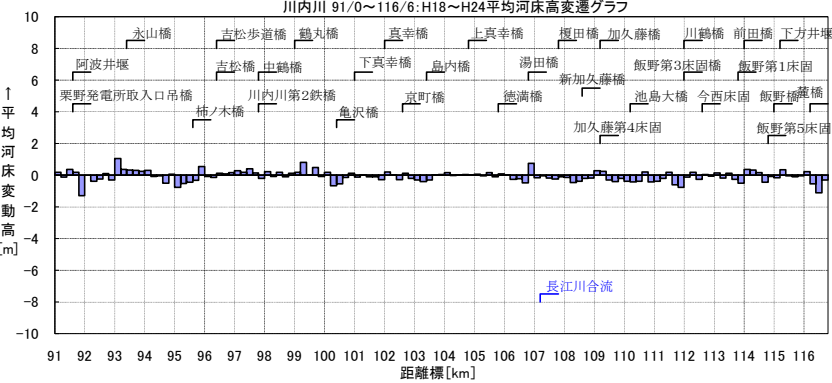
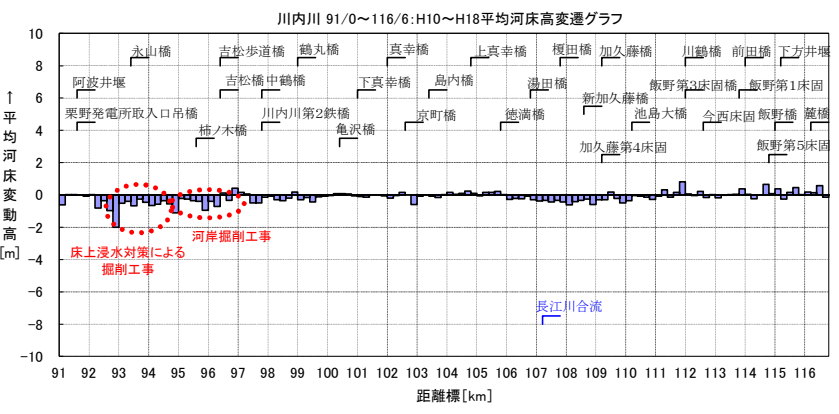
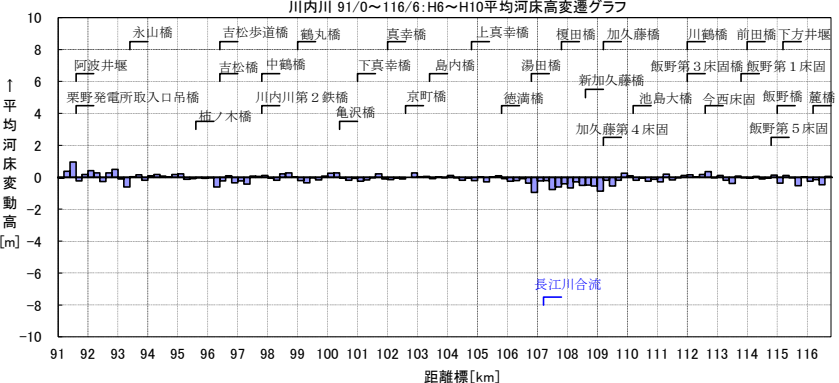
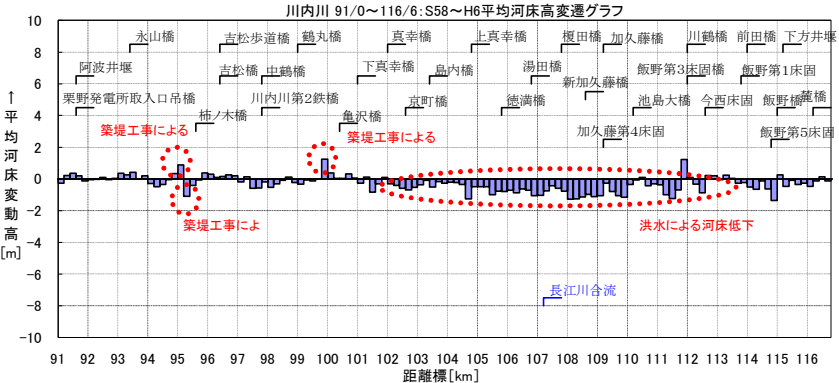


横断形状の経年変化

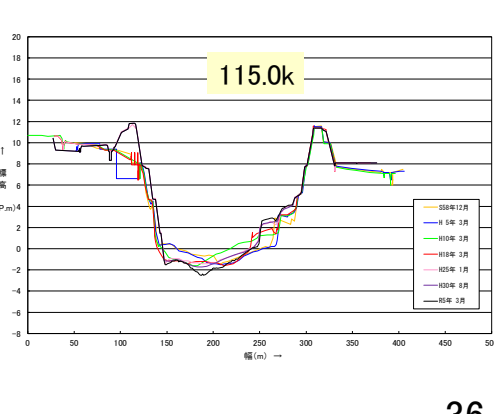
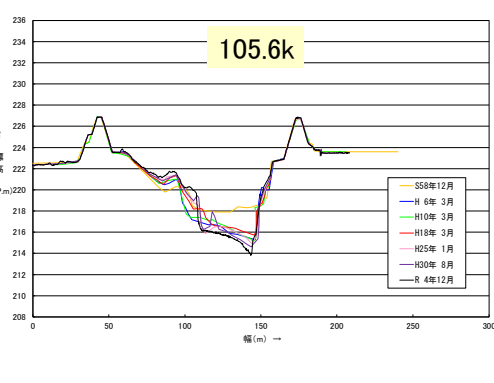
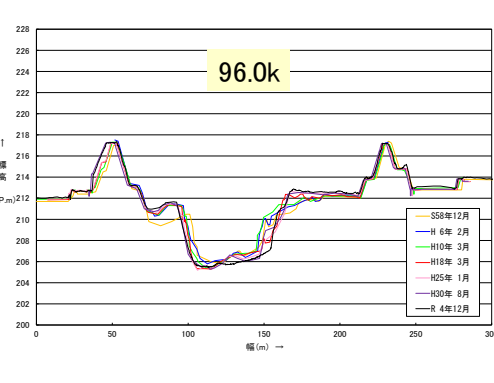


○ 平成初期までは、洪水による河床低下が生じているが、河床低下対策として床固工が設置され、近年は、部分的な洗掘・堆積が見られる程度であり、概ね安定傾向である。

平均河床高の経年変化

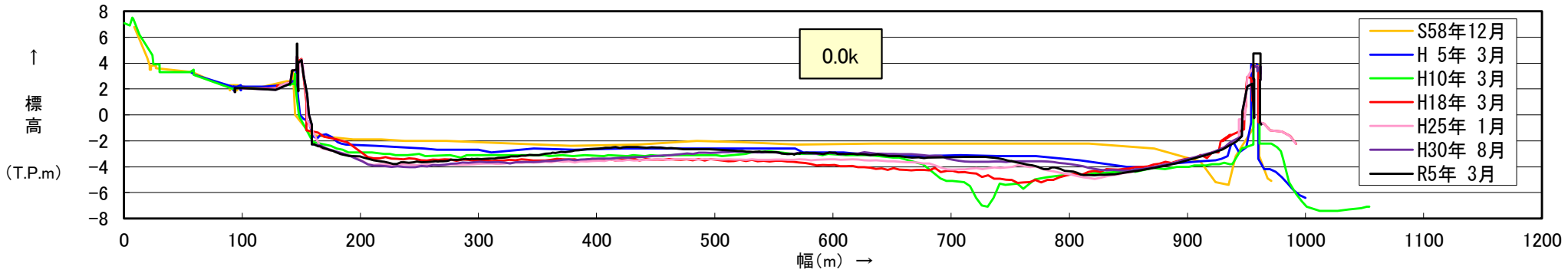
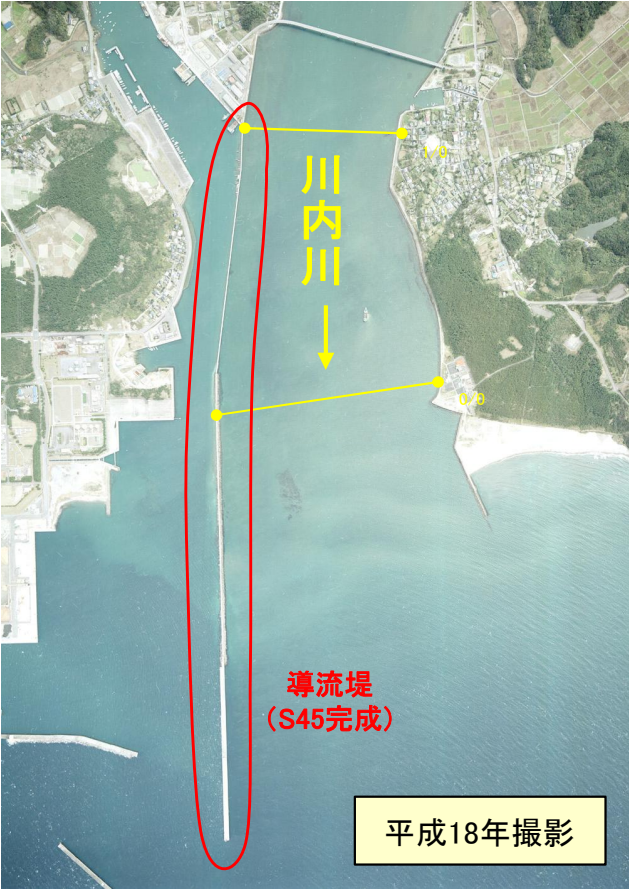
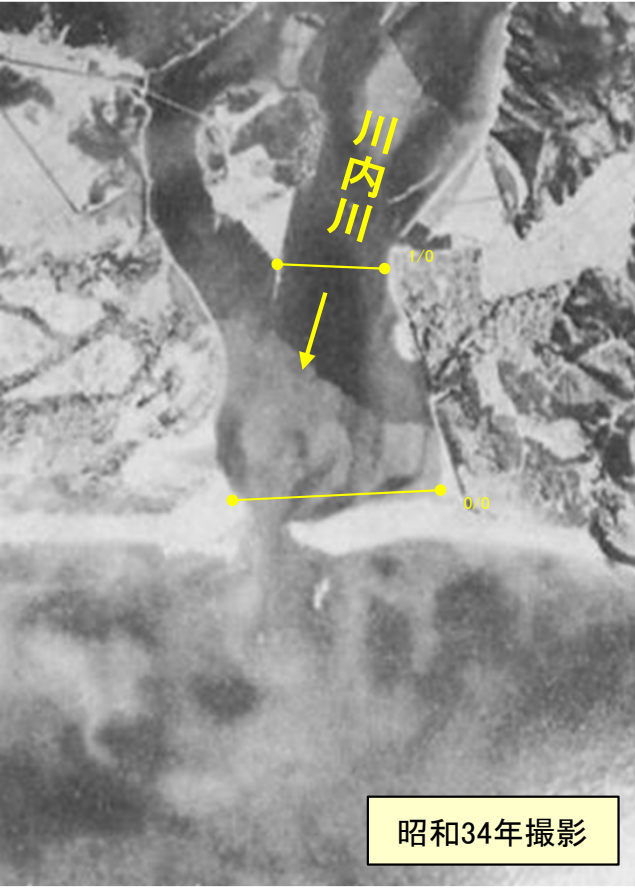


横断形状の経年変化



総合的な土砂管理 河口領域の状況

- 河口領域は、海浜よりの季節風による飛砂並びに波浪や潮流による漂砂等のために発達する砂洲によって、河口閉塞が生じていたため、河口部に右岸導流堤を設置し、昭和45年に完成した。導流堤完成後は、侵食・堆積の顕著な傾向は見られず、安定して河口が維持されている。
- 今後も定期的に横断測量等のモニタリングを行い、河口の状況把握に努める。



総合的な土砂管理 海岸領域の状況

○ 海岸領域では、川内火力発電所(昭和49年運転開始、令和4年廃止)及び川内原子力発電所(昭和59年運転開始)の建設に伴い、海岸部の整備も行われており、以降、汀線に大きな変化はない。

海岸の経年的な地形変化状況

